

67-185



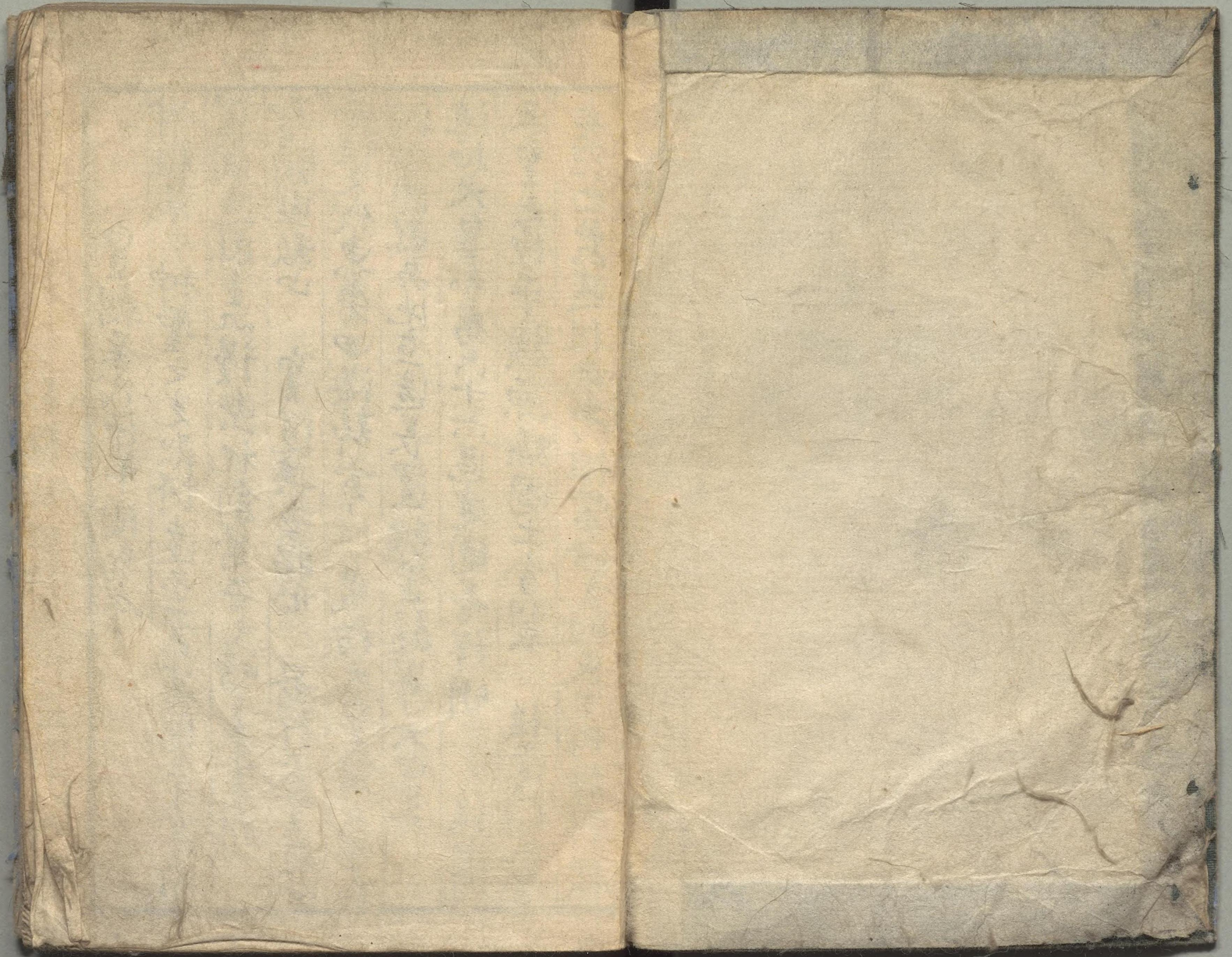
1200501281056

歷代

館書圖京東

冊	號	架	函	類	門
---	---	---	---	---	---

Ⓜ



白皇朝歷代沿革圖初序

神祖承 神聖之光烈愷遠丕業建國三十名國

置國造縣主以謹祭祀創垂垂之鴻基承列

聖德昭昭 皇道與共昭昭 景行天白皇親心

西陲又伐東夷四海靜寧 成務天白皇繼之界山

河分國縣為地立造長置編置疆界大定至

淳和天皇分為六十六區建國是詳明 後白河

天皇之際平頗源蹶國土分裂 後土佐門天皇

應仁之亂足利氏漸微當此之時天下郡縣割據

去道陵夷壞亂極矣建廢沿革之還不可究詳也

至于 後水尾天皇之和開德川氏執政海內歸一

述之勢始成焉是古今沿革之大梗也舊有圖解

讀國史者以之照證甚為簡捷恨東梓罹災跡本

漸罕誠之敢共書肆諫改刻且付臆見以便初學者

夫明治二年 王政維新奧羽蚩夷分國新定光烈

耀于千古因又加一圖以表章丕績覽者其諒之

大板誠之謹誌

明治庚午初冬

○諸國ノ名後ニ文字ヲ改ムル説

○山背山城 山代同 關木代同 山開同 大養徳大和 大倭同 山跡同
 ○山戸同 吾餓伊賀 凡河内 河内 島津 珠流河 歌斐 相武 相模
 ○無邪志武藏 阿波 安房 淡 司 總 淡海 近江 近淡海 同 三野 美濃
 ○斐陀 飛彈 林野 信濃 信農 同 上毛野 上野 上莞毛 同 下毛野 下野 下莞毛 同
 ○道奥 陸奥 高志 越前 越中 越後 越 同 能等 能登 加我 加賀 但波 丹波
 ○但遲麻 但馬 多遲麻 同 稻葉 因幡 稻羽 同 伯岐 伯耆 意岐 隱岐 於岐 同
 ○針間 播磨 備前 備中 阿岐 安藝 周芳 周防 宍戸 長門 穴門 同
 ○木 紀伊 淡道 淡路 粟 阿波 伊余 伊豫 都佐 土佐 土左 同 筑志 筑前
 ○豊 豊前 火 肥前 肥後 虱間 薩摩 大角 大隅 伊吉 壹岐 伊伎 同 津嶋 對馬
 集嶋 同

○古國ト稱シ後郡郷ニ改ムル説

葛城國 大和 葛上 舊下郡 徳 國 參河 望 久努國 遠江山 郡 久努郡 廬原國 駿河 廬原郡 師長國 相模 餘綾 郡 磯長郡
 知々夫國 武藏 秩父郡 須惠國 上總 周准郡 馬來田國 同 望 陀 郡 上海上國 同 海 上 郡 伊甚國 同 東 瀨 郡
 武社國 同 武 射 郡 菊麻國 同 市 原 郡 印波國 同 下 總 郡 下海上國 同 海 上 郡 新治國 常 陸 郡
 筑波國 同 筑 波 郡 茨城國 同 茨 城 郡 仲 國 同 那 珂 郡 久自國 同 久 慈 郡 高 國 同 多 珂 郡
 菊多國 同 陸 奥 郡 阿尺國 同 安 積 郡 伊久國 同 伊 具 郡 漆羽國 同 標 葉 郡 浮田國 同 宇 多 郡
 信夫國 同 伊 達 郡 白河國 同 高 野 郡 石背國 同 伊 達 郡 石城國 同 磐 城 郡 須羽國 同 須 賀 郡
 三國國 同 越 前 坂 井 郡 角鹿國 同 教 賀 郡 江沼國 同 加 賀 郡 羽咋國 同 能 登 郡 伊弉頭國 同 越 中 郡
 久比岐國 同 越 後 郡 二方國 同 但 馬 郡 鴨 國 同 賀 茂 郡 明石國 同 明 石 郡 大 伯 國 同 邑 前 郡
 上道國 同 上 道 郡 三野國 同 御 野 郡 下道國 同 備 中 郡 阿武國 同 長 門 郡 加夜國 同 賀 屋 郡 品治國 同 備 後 郡
 大嶋國 同 大 島 郡 都怒國 同 都 濃 郡 阿武國 同 長 門 郡 熊野國 同 紀 伊 牟 野 郡 長 國 同 阿 波 郡
 久味國 同 伊 豫 郡 小市國 同 越 智 郡 怒麻國 同 濃 滿 郡 風速國 同 早 郡 波多國 同 土 佐 郡
 未多國 同 筑 前 夜 須 郡 馬 田 郡 宇佐國 同 宇 佐 郡 國前國 同 豐 後 郡 比多國 同 日 田 郡
 未羅國 同 肥 前 松 浦 郡 阿蘇國 同 肥 後 郡 葦分國 同 葦 北 郡 天草國 同 天 草 郡 葛津國 同 肥 前 郡
 許乃國 同 山 城 郡 藩垂國 同 常 陸 郡 信太國 同 信 太 郡

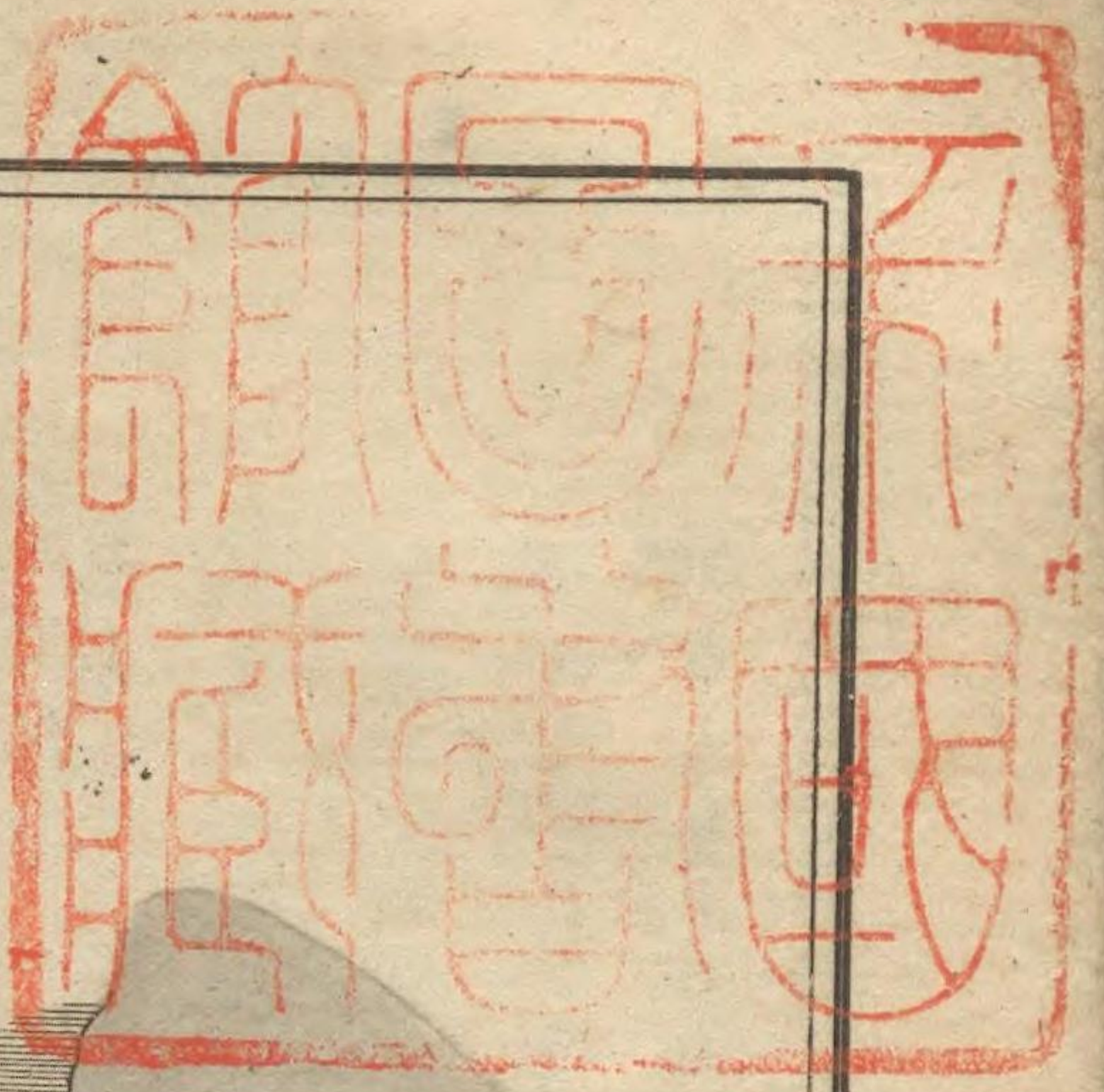
神武天皇平定寰宇圖

皇紀は 伊弉諾伊弉册の二尊。破馭廬嶋は降臨す。先づ淡道洲と胞を以て
大日本豊秋津洲を生じぬ。次は伊余乃二名の洲。次は筑紫比洲。次は隱伎の洲。佐渡
の洲。次り越の洲。大洲。次り吉備乃子洲を生じぬ。是を大八洲の号起るとか
や其のち。天孫日向の高十穗の峯。降里ぬ。時。武甕雷命。経津主命の二神と
將軍と。其従ひ奉らざる。悉く平らぎ。豊原中津國を治先知りめ
は。是を。鵜鷄茅葺不合の尊。皆日向の地。都のへり。此尊かまませし
後諸國。和命と背く者多う。皇子神日本磐余彦火々出見の尊。東征と
議。甲寅歲十月。舟師と率ひて。速吸の門。夫を。筑紫の菟狹
は着御あり。十二月。阿伎の國。埃の官。卯の年。吉備の國。高嶋の
行官。移り。兵船と修り。大率乃策と催し。遂は浪速入り。進て河内
比。龍田。向ふ。敵長髓彦。孔雀坂。防。皇師。河内
紀の國。退き。九月。再び大倭へ打入りぬ。菟田吉野と徑く。我ひ數度。及

同十二月。饒速日命。長髓彦と誅して。降順。是を。諸國平定。此後
大倭國。檀原の都。小く登極。入皇の始。後乃世。神武天皇と尊
号。奉る。かり

皇紀は 神武天皇の都を大倭小定先給ひ。東國の王化。降せしむ
と乃せむ。今爰は出す。処。古事記。風土記。同。造本記。小く書せむ。殘篇
乃一書の。況。相模の地。親征。有。其。實。は。此。時。の。勢。ひ
かれ。其。説。は。あ。ら。う。東。奥。の。地。常。陸。と。り。陸。奥。と。つ。て。地。て。住。古。ハ。夫。の
地。也。也。母。と。へ。て。冠。服。の。國。と。か。ま。し。む。彼。宿。小。按。比。る。此。地。元。來
美。地。は。ら。ら。け。る。其。國。内。地。也。恐。南。せ。処。も。あ。く。海。陸。相。接。り。將。帥。長。弼
て。入。べ。地。界。と。い。ふ。べ。既。は。神。代。は。麻。嶋。香。取。の。武。神。此。地。まで。平。定。り
ある。に。ハ。其。邊。は。昔。を。り。鎮。先。坐。す。是。國。民。そ。乃。德。と。崇。め。一。ツ。の。池。あり。夫。々
後。世。の。乱。し。時。貢。の。道。え。朝。廷。ら。も。と。あ。す。い。つ。う。美。域。は。あ。り。と。え。也。唐。土。小。此
例。多。し。夏。島。の。時。南。ハ。遠。く。文。趾。す。て。封。域。たり。周。々。楚。國。也。楚。蠻。と。稱。せ。し。類。也。べ

神武天皇三皇宇寰圖



韓

近江國竹生嶋縁起云
 孝靈天皇廿五年湖水漲而
 此嶋頭出也云々然れ此時嶋
 始て現し湖水は元より有之
 と又も皇代記に出入り後入
 の出入りもまばこれ用ひず



景行天皇東西征定之圖

抑神武天皇の御時より九代に至り崇神天皇十年の事。邊夷王化はせざりし。大彦の命を北陸に遣はし。武渟別の命を東海へ。吉備津の命を西の道。丹波道主比命を丹波に遣はし。征伐せしむ。翌年右四道の將軍各皆討平らげ。輝陣なす。同六十五年より任那國より始り貢を奉る。は國百海の東南より尚里對馬に近し。一書は意富加羅國の王子末朝とあり。則ち大駕洛國に。任那の一名あり。此役輝帆乃詔と。新羅國より兵船を出し。我朝よりの賜物をうづ。けのち二國争ひ起るといふ。景行天皇宝位を継ぐは十二年。筑紫の熊襲叛。此乃其バ。親征し。明年是と平らげ。行官小おま。て。筑紫を治先十九年。還幸する。廿五年熊襲又叛き。う。皇子小碓の命を。討伐せしむ。日本武の。同四十年東夷乱とあり。今度も日本武比尊征伐あり。伊勢を。東國は。皇。向ひ。進み。悉く臣伏す。夫より。相模又。総の國は。渡り。海。を。東征す。夷賊竹の水門にて防戦ふ。いへども。尊の神武は。歌。皆。降参して

速く小平定ある。尊是より常陸とま。甲州酒折の官は。信濃越の國。隱祖と。今。應。より。甲斐武藏上野を。碓氷の坂。小。兵。と。分。吉備津彦と。越。尊。信濃より美濃は。出。吉備津彦は。會。共。尾張。至。尊。い。ぬ。き。山。り。微。行。後。御。心。地。例。お。ら。ん。終。能。衰。野。ま。て。崩。帝。涼。く。狄。き。ら。ひ。同。五。十。三。年。は。往。征。路。と。巡。幸。し。翌。年。都。は。ら。せ。ぬ。同。五。十。七。年。は。近。江。の。國。志。賀。は。都。と。遷。ら。ぬ。也。

此後 成務天皇ノ御時國造ヲ賜ヒシ國ハ國造本紀ニ出タリ此時始メテ立シ國多カ

ルベキナレドモ元ヨリ有シ国工爰ニテ國造ヲ賜ルモアルベシ因テ前番ニシテザル國名ノミ記ス

- 伊賀國 嶋津今志戸 廬原駿河 師長ホ詳 須惠上総 馬来田信濃 海上上郡 伊甚信濃 武社信濃 菊麻信濃 阿波安房
- 新治常陸 筑波信濃 仲信濃 久自信濃 高信濃 額田未詳 阿尺信濃 思未詳 伊久信濃 深羽信濃 浮田信濃 信夫信濃
- 白河信濃 石背信濃 石城信濃 三國信濃 角麻信濃 能等信濃 伊弥頭信濃 但遲馬信濃 二方信濃
- 稻葉信濃 伯岐信濃 針間鴨信濃 吉備品治信濃 大島信濃 長信濃 志未多信濃 國前信濃 比多信濃
- 高郡 天草肥後 葛津立肥前 藤津郡

景行天皇東西征定圖



東夷、夷地武内大臣、言三曰高見ノ
 国トアリシハ沃野ト云意ニテ廣キ
 良田アル地ナク也

京都 大倭
 今、城上郡
 日向日代官

任那
 新羅



阿蘇
 其今郡後郡名也

神功皇后攝政元年征韓之圖

成務天皇と奉ハ景行天皇の皇子小すりて。宝祚を侵す也。御位と日本武尊の御子傳へぬ。仲哀天皇の御事也。此帝乃三年。諸國伐巡指らして。穴門北國豊浦の官。おます。同八年。熊襲又叛れられ。親征し。同九年。其陣中に於て崩れ。一況。熊襲の賊射奉るとも云り。神功皇后是を誅く。武内大臣と議り。熊襲を伐らげぬ。新羅乃世く乱れ。新羅を助カセ。故也。是よりて皇后蒼生の患を永く救はん為。大海乃危険を凌ぎ。新羅を征伐し。同十月。和珥の津より。御船を出し。大風順と吹く。彼國は打入。新羅王カ降。高麗百濟を是を。震恐る。皇后兵を久く海外より先ならず。歳貢を約し。其王子を質とし。凱陣し。今に於て。吳國より。我朝を以て萬國中の強とす。神后の英武。權輿する所あり。作ぐ。崇む。

○故の朝鮮といふ地。三韓より北。方にて。上古。唐堯の頃。檀君その地を主たり。周の武王殷を克て。箕子を朝鮮に封ず。此時都を平壤に定む。夫より四十一代の孫。箕子を以て。燕人衛滿は國を奪はれ。南は遼。是馬韓の祖なりといふ。衛滿の孫の右渠乃時。漢の武帝その地を攻めり。玄菟樂浪真蕃臨屯の四郡とす。三韓は世々志る。馬韓弁韓辰韓也。百濟は。韓地は起り。馬韓を併す。新羅任那は。つても百濟の附庸あり。高麗も。韓地は起り。馬韓を併す。新羅任那は。扶餘を破り。扶沮伐滅し。西は遼東を寇し。南は百濟を侵す。其國最に大あり。後漢の末。公孫度遼東小投り。威名華夷に流行す。此時高麗恐れ。和親を乞ひ。百濟も。新羅に嫁り。新羅は。故乃辰韓地あり。奸計多く。その貪暴は。本朝の征伐を受へ也。

諸道の小國。前の圖は出さず。夏は書す。其間。其間の沿革を國史。よのせざまを略せり。常陸風土記の流。孝徳帝の御時。皆小國の名あり。足柄の坂より東の小國を省き。八國に定め。應神仁徳二帝の朝。國造を賜ひ。國の名は。圖の外は書さず。

征韓偉略

熊襲之叛也。雖世加征伐。反覆不平治。其云如何。元來有新羅之後援故也。新羅原為百濟屬國。背而通高麗。姦暴併近隣小國。貪心不輟。侵我邊海之地。漸昵熊襲。擾西州。遂至天子親征。帝之崩軍中也。如日本紀一書所云。賊箭所為。不可知。於是諸軍可瓦潰。幸為有神后。賢明老臣良策。深秘大喪。得破襲部落。尚不撓其銳氣。帥軍征伐新羅。懷妊著甲之苦。風波矢石之難。共為國家。不思其勞。新羅王防禦術盡。降于軍門。永誓貢調。高麗百濟傳聞之恐懼。

皇威遠振異邦。神后不久留軍海外。質子弟而凱陣矣。於今萬國指本朝。稱天下強國。不敢侵者。全權輿。神后武德焉。然唯以謂為獲財室。擊他邦大謬也。凡古史文外多義理。精讀可睹其時勢。夫熊襲對戰中。昇駕忽促之後。雖百計破賊。西州軍民未為安。若一朝生變。難再為平治。故建征韓大策。一可有復讎之事。一為蒼生殲賊巢穴。一韓地振旅示大威。定士民之心。國家安危。此一舉而匪貪兵之類。實可謂仁義之兵。古人論此。神后多異說。皆好奇之說。而無明證。不可信。僕頃以書圖說。與同志為仰崇。重識圖後云。

推古天皇二十六年之圖

是より先き建安北五年小漢亡び蜀漢魏呉の三國と分れ遼東ハ公孫度卒して其子公孫康魏ヲ虜して塞外を領す其弟公孫淵に至り魏の爲に滅せらる百濟新羅水朝に臣貢するを以て新羅ハ肖る時あり常ニ百濟と戦ふ晋氏起りて三國亡び去りて一統せしむ程なく大ニみだれ五胡中國と争ふ其中の鮮卑を高麗と遼東とありそふ高麗又百濟を侵し互ひに勝敗あり其のち北魏拓跋代の地より起り五胡の域を悉く併す晋ハ江東を保ちしむ逐ニ宋氏是ニ代る是より南北此ハ高麗強くして百濟を破り其王を害す太子南ニ走り我朝の兵力を強めて熊津ヲ都と宋ハ國と南齊ヲ傳へ齊また梁ヲ讓りし比百濟又強し此以前ハ北魏も東西ニ分れ其後東魏ハ北齊西魏ハ小周と替る此戰の隙ニ高麗ハ遼東を奪ひ百濟ハ遼西を取ると云り百濟王高麗を伐て平壤を陥し奮領を復す此時梁亡びて陳代る高麗百濟と戦ひやすし百濟終ニ平壤と漢城を奪ひつゝ新羅此弊を棄て漢城を略し任那を滅す本朝より任那の再興と百濟へ命せしむると果さば是欽明天皇の御宇也

高麗貢と奉りて臣服す 敏達天皇六年の比北齊周ニ亡ぶざる周も程なく隋陳と滅して皆一統せり推古天皇十五年の時隋の煬帝位につき大業と改元す同十五年

小野妹子を隋に遣はし同廿九年大業煬帝自ら高麗を伐其九年又遼東を攻め克すされど高麗も守れぬを降を乞ふ大業十年より隋大に礼る翌年李淵唐の代王と立煬帝の孫其明年隋をろびて唐興る

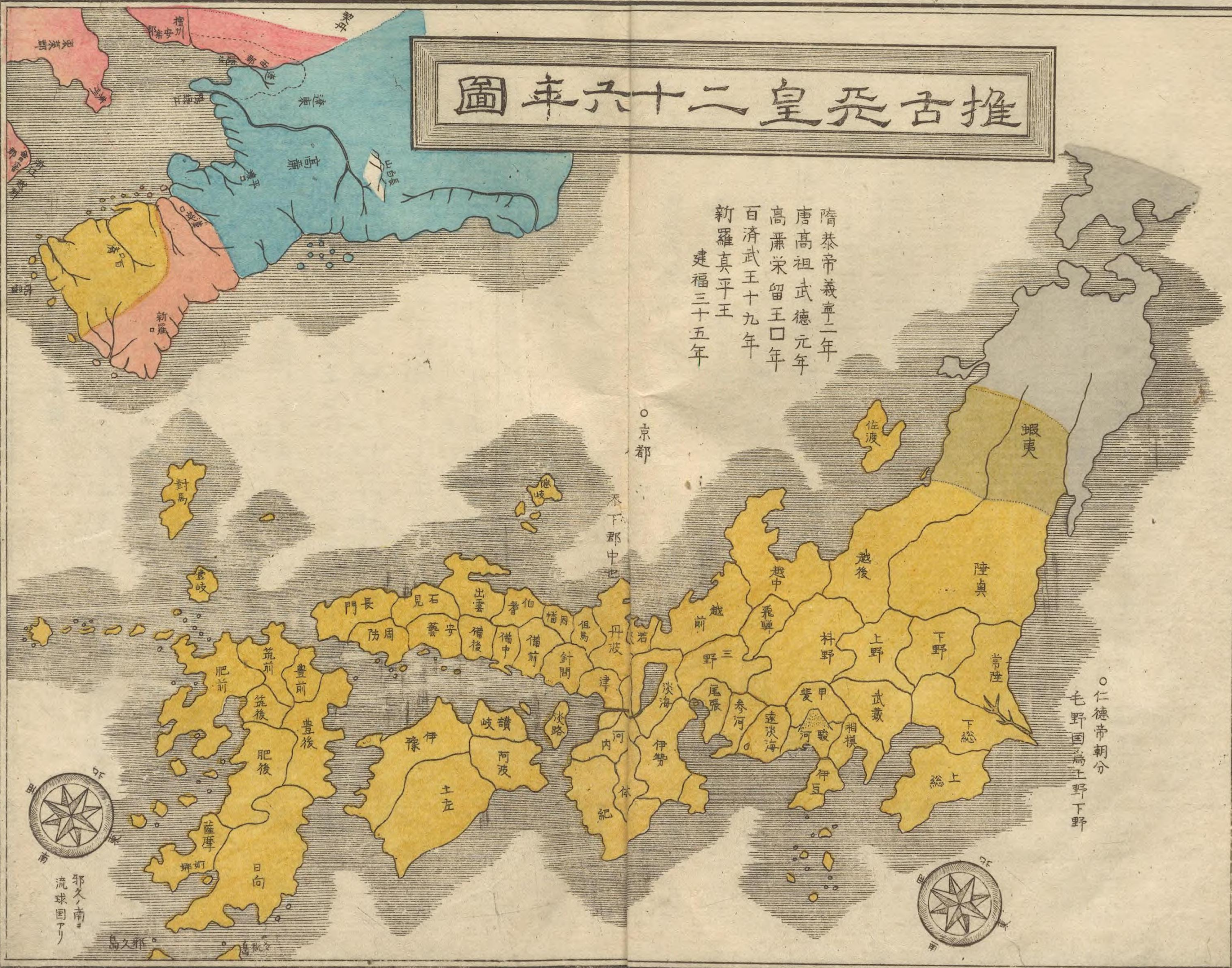
雄略天皇の朝羽咋の郡名の國造を賜ふるあり此朝よりして

推古天皇の朝追々小國漸く郡に改りしは之也然れども常陸風土記の説にてハ孝徳帝の御時坂東の小國を郡に改め

しあり其餘の國も去りありし小や郡も始ハ評と書リ吳朝小も北方にてハ唐の未ニ評と云リ小國の名も姓もハ評リしガ今ハ他に如し神宮記にも孝徳帝の朝小國の名存せるをえへたり

推古天皇二十六年圖

隋恭帝義寧二年
 唐高祖武德元年
 高麗榮留王口年
 百濟武王十九年
 新羅真平王
 建福三十五年



○京都

不下郡中也

○仁德帝朝分
 毛野國爲上野下野

邪久南
 流球國了り

齋明天皇六年圖

齊明天皇四年越後の國司阿部の比良夫蝦夷と討く。越田津代津輕と平治各郡領と進こく度島の蝦夷より。肅慎と伐同五年再び征して。後方羊蹄と政所と。郡領と並くゆ軍兵。此比津輕ホ乃諸郡越後の管する所と云々。後天平の頃蝦夷再乱のとき。此政所郡領とも廢棄する小玉侍

是と云先唐の貞觀十九年太宗親ら高麗を伐く。遼東を攻られ。翌年高麗降と乞。同北一年唐の李勣。又高麗を伐。此以前は高麗百濟と新羅と攻む。永徽五年高麗より契丹國を伐大小敗してゆ。其明年高麗又新羅と攻む。新羅救ひと唐

手高麗より契丹國を伐大小敗してゆ。其明年高麗又新羅と攻む。新羅救ひと唐小清ふ。たゞは於て蘇定方を將として。高麗の新城と破る。顯慶五年高麗の都と

羅と共に。百濟の都を陥し。義慈王唐に降りて百濟をろふ。其翌年百濟の福信忠義の兵を集めて。新羅を破る。軍威ふくくは振ふ。遂

は王都を復し。本朝は賀とり。王子豊璋と迎ふ。天皇援兵を出したまふ。抗て。筑紫朝倉の行官は御幸ある。福信此比唐の列仁軌と對戦す同七月。蘇定方。高麗の都と

困む。同月。天皇依は崩す。太子皇太子軍國を監び。天智天皇元年三月高麗へ援兵を遣はす。同二年其兵新羅の二城と抜く。此時百濟王豊璋と信とて。福

信と誅する。民心と失ひ。唐のため小。其都と陥され。百濟再び亡ぶ。同八年高麗も唐に滅せらる。新羅は。其後。唐の安祿山が乱を興す。鴨緑江より南の地と。悉く併せたり

孝徳帝朝分陸奥多珂國為多珂石城二郡。割常陸茨城國置行方郡。茨城後為郡。白雉四年分筑波茨城二郡為信太郎。同朝以

相模國足柄岳坂以東分八國常陸居其一。先是諸縣唯祇新治筑波茨城郡賀不慈多賀國。總不言常陸云云。常陸風土記。同朝停伊賀國隸

於伊勢國。國造本記。

元正天皇養老四年圖

大建よりさ死 天武天皇白鳳九年七月小伊勢四郡をさして伊賀國を立駿河二郡を分て伊豆國を置倭姫世紀扶桑畧記大宝二年三月越中四郡を分て越後小属す和銅元年九月越後國小出羽郡を立同二年二月小遠江國長田郡を分て長上長下二郡とす同四年三月上野國草羅綠野片岡三郡の内を分て多胡郡を置同五年越後國を割て出羽國を置一説小同十月陸奥國最上置賜二郡を割て出羽國小つゝとむ同六年日向國肝坏贈於大隅始羅の四郡を割て大隅國を置丹波國五郡を割丹後國を置備前六郡を割て美作國を置同九月津の國河邊郡を割て能勢郡を置同十二月陸奥小丹取郡を置靈龜元年七月美濃國小席田郡を置同十月陸奥小香河閔二郡を置同二年四月河内國大鳥日根和泉三郡を和泉監を置同五月武藏小高麗郡を置養老二年五月越前の羽咋能登鳳至珠洲四郡を割て能登國を建上総の國平群安房朝夷長狹四郡を割て安房國を立陸奥の石城標葉行方宇太亘理菊多四郡を割て石城國を建白河石脊會津安積信夫五郡をさして石脊國を立常陸國多珂郷を割て菊田郡小い並石城國小属せしむ同三年四月志摩國塔志郡五郷を割て佐藝郡を置今此郡

養老四年より八年の後神龜四年小至りて渤海國の王大武藝をいめて使を渡し高麗の舊好を修す此國高麗の故地小て今の滿洲の域なり後小唐の遼東をも併せたもてり此使來りてふと延喜の末まで貢舶とへ

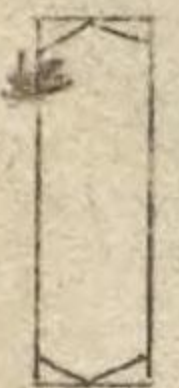
皆出羽越後の海路より來て其國王大諲謀の代小何とりて契丹の大祖阿保機がさめ小亡なきも同四年渡嶋津輕の津司諸の君韓男等を靺鞨國小つゝハその風俗を觀せしむ同九月陸奥の蝦夷叛く同十一月河内の國堅上堅下二郡を大縣郡とい

津輕の地前畠小ハ越後小属せしが出羽國を建しより其属郡とありしと見ゆ

○國名の凡例

監職印

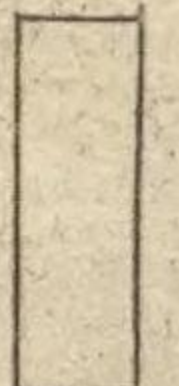
國三等シシ或ハ属郡アリ



後三廢



後二國名



今二國名ニ定ムル印

淳和天皇天長元年國名全定圖

養老五年四月佐渡の雜太郡を分て賀茂羽茂二郡を置備前の邑久赤坂の二郡を分て藤原郡を置周防の熊毛郡を分て玖珂郡を置備後の安那郡を分て深津郡を置同六月信濃國を割て諏方國を立同十月陸奥の柴田郡を割て菊田郡を置同六年遠江の佐益郡を分て山名郡を置養老の末より芳野監を置神龜三年十一月備前の藤原郡を藤野郡と改む天平二年正月陸奥小田夷郡を置無之同三年諏方國を廢して信濃國小并是同五年多禰鳴熊毛郡大領小多禰鳴國造の姓をぬ小同十二月出羽小雄勝郡を置同年大倭國を大養徳國と改む同十二年八月和泉監を河内小并是此此並併せ一也同十三年十二月安房國を上総小并せ能登を越中小并是同十五年二月佐渡を越後小并是同十二月をいめて筑紫小鎮西府を置同十九年三月大養徳をもとの中とく大倭國とす天平勝室四年又佐渡國を置同七年大隅小菱刈郡を置天平宝字元年五月能登安房和泉の國を再び建同九年のころ大倭を改よめ大和國拾芥抄天平同八月武藏小新羅郡を置無之神護景雲元年十一月陸奥小栗原郡を置同三年六月

備前の藤野郡を和氣郡とす同十月河内國を河内職とす同四年八月又河内國小復是靈龜二年十月武藏を東海道小入山道同十二月筑前國を停て太宰府小属すのち筑前國を立しと延曆四年陸奥小多賀階上二郡を置同七年六月備前小盤梨郡を立同十三年三月攝津職を改め攝津國と改む天平宝字六年の銅牌小攝津國と同十一月山脊を改め山城國とす同十六年九月筑前を廢し又太宰府小隸是同十八年三月陸奥國富田郡を色麻郡小并せ讚馬郡を新田郡小并せ登米郡を小田郡小并是今新田小田とも書す同二十三年十一月出羽國秋田城を停めて郡とす大同元年七月紀伊國安提郡を在田郡とす同三年五月再び筑前國を建同四年九月小伊豫國神野郡を新居郡と改む弘仁二年正月陸奥國小我蔭貫斯波三郡を置同十四年二月越前の江沼加賀二郡を割て加賀國を建江沼郡をよけて能美郡を置加賀郡を割て石川郡とす天長元年九月多禰鳴國を停めて大隅小隸是出小於て國名永く全定して六十六ヶ國小定まりぬ

淳和天皇元長元年國名全定圖



蝦夷

新羅



延曆三年山
城國乙訓郡
長岡村二新
都之造管入
号平安城

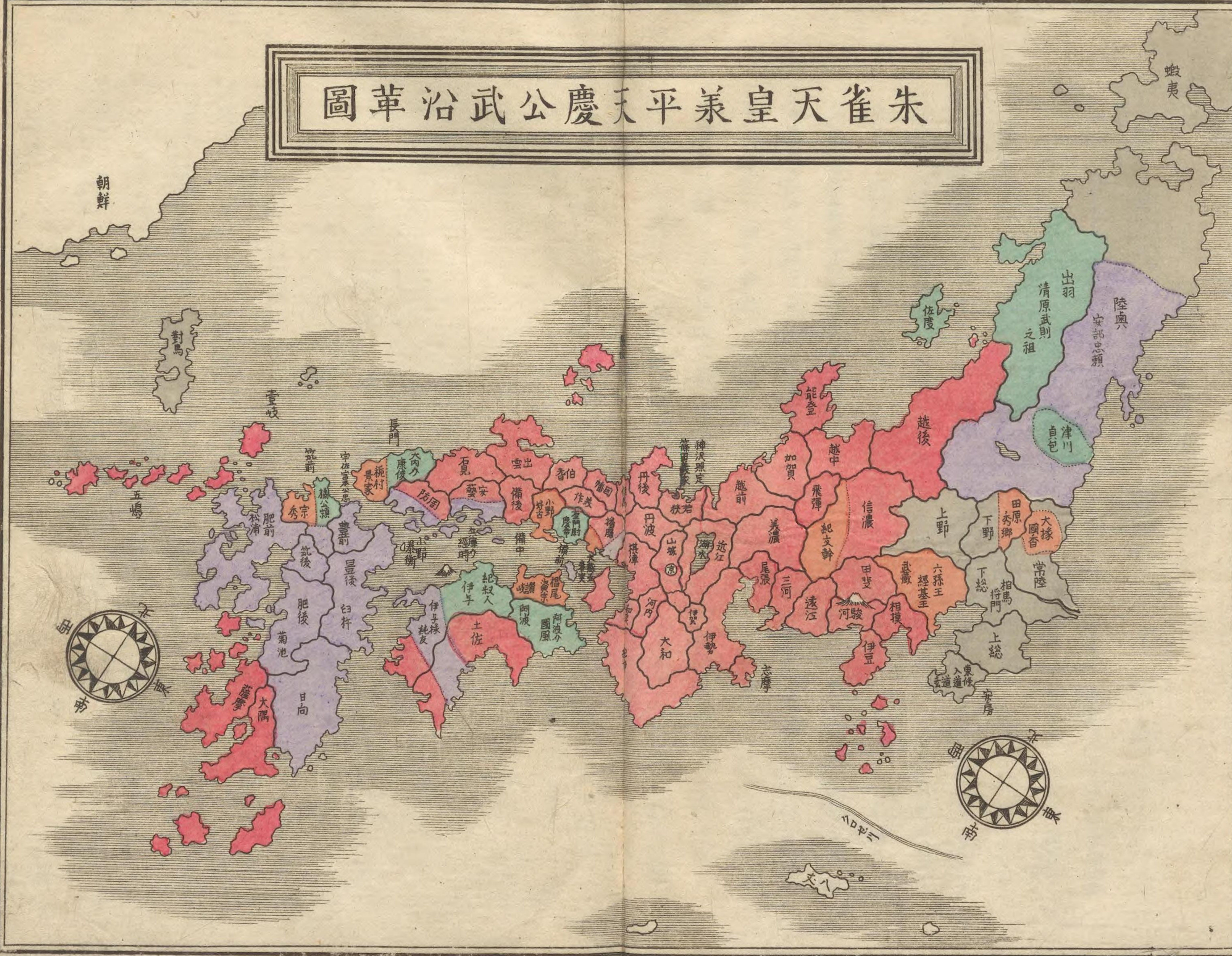


承平天慶公武治草之圖

清和天皇第六の皇子貞純親王の御子經基王（はじめ）源の姓を賜ふ（よ）清和源氏（の）の太祖（なり）あり此王文武の道（う）賢（い）く在（け）き（は）是より武臣（と）あり（あ）ひ（て）勇（い）々（と）朝廷の御守護（なり）なり（よ）の頃ハ武藏守（小）任（下）武藏國箕田（小）在（城）仁政（を）播（こ）み（ふ）小より世以て尊崇（し）奉（る）○爰（小）桓武天皇の曾孫前將軍良將の次男相馬將門下総の國（小）在（て）謀反（を）發（し）援嶋郡小館（を）構（へ）大内裏（小）比（を）かく（て）軍議評定の折（ら）常陸大掾國香の三男平の兼任來會（を）始終一言（も）発（せ）び（飯）も將門（を）怪（み）彼二心（あり）是（を）緩（小）る（さ）バ大事（必）と（き）より漏（れ）ん（と）則兵（を）發（し）て常陸（小）出張（を）國香子息郎徒（を）集（め）防戦力（を）盡（す）といへ（と）も衆寡敵（せ）び國香竟（小）矢（小）中（で）て死（を）因（て）同國土浦の城没落（し）國中將門（小）屬（を）○將門威勢（小）乘（下）て武藏（へ）攻入箕田（を）圍（む）經基王防禦（を）然（ま）と（も）渠（が）威勢破竹（の）如（く）なき（は）その銳氣（を）避（れ）退城（あり）洛（へ）歸（り）ぬ（ふ）將門い（み）く（逆）威（を）震（ひ）下野を畧（し）安房上総（を）伐（開）東大畧（彼）が手（小）屬（を）○國香の嫡男上平太貞盛折節（在）

京（を）り父が最期（を）聞（開）東（へ）下向（し）藤原の秀郷（と）カ（を）戮（し）て將門（を）攻（む）將門の軍每度利（を）失（ひ）終（つ）小辛嶋（小）將門誅（小）伏（を）○伊豫掾純友將門（と）心（を）合（せ）南海東海一時（小）蜂起（を）紀淑人伊豫守（小）任（下）下向（し）純友竟（小）九州（小）走（り）太宰府（を）攻（拔）九國大半（彼）小屬（を）○小於（て）朝廷右近衛少將小野好古散位武嘉源經基王（を）兩大将（と）る（し）嫡子左馬助滿仲（を）始（め）其勢五萬餘騎西海（小）進發（あり）九及所々（小）合戦（あり）竟（小）純友（ち）負（て）引退（き）け（き）と（も）その往方（を）知（ら）ぬ（か）く（て）後純友再（び）軍勢（を）集（め）筑前博多の津（へ）寄（り）猛威盛（なき）バその注進櫛（の）齒（を）挽（が）如（く）故（小）朝廷また參議平忠文（を）征西將軍（と）して天慶四年四月廿八日西州（へ）進發（あり）拱津國渡邊（小）執（勢）を揃（へ）○かく（て）好古經基の兩將大小軍勢（を）募（り）再（び）純友（を）追崩（し）純友大小戰員（て）本國（へ）歸（る）こ（ゝ）小同國の任人橘の遠保謀（を）以（て）純友（を）生捕（こ）小於（と）東國西國の動乱一時（小）鎮（を）四海大平（と）ハ（な）き（り）

朱雀天皇兼天平慶公武沿革圖



朝鮮

蝦夷

出羽

清原武則之祖

陸奥

津川

佐渡

能登

越後

越中

加賀

飛騨

信濃

上野

下野

田原

大塚

常陸

武藏

六孫王

相模

上総

相馬

尾張

三河

遠江

河駿

伊豆

志摩

大和

伊勢

伊予

土佐

伊予

肥後

日向

大隅



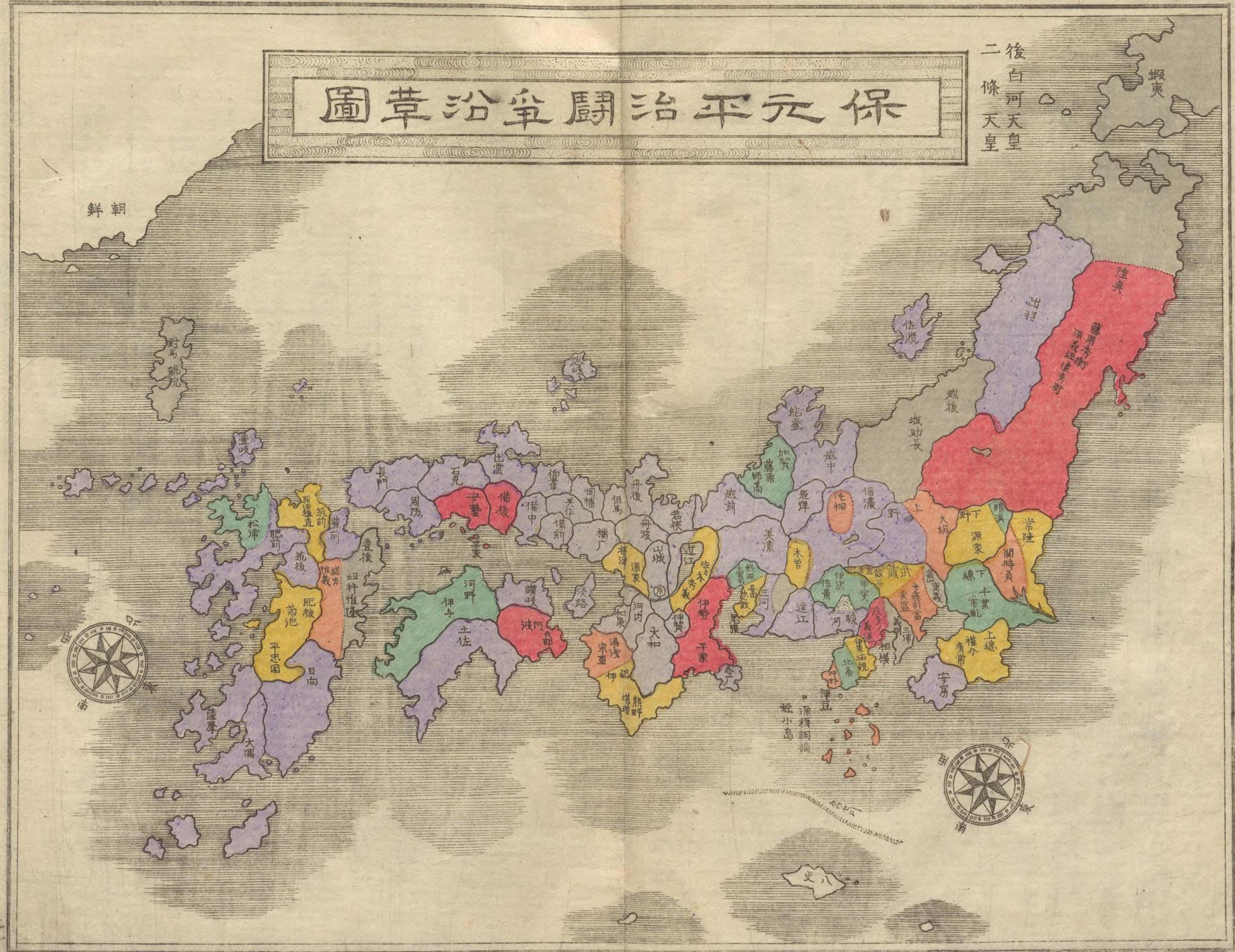
保元平治闘争沿革圖

抑保元の擾乱ハ、鳥羽上皇の寵妃美福門院の所生の、迹衛帝を立んとして、崇徳帝の御位を下し後す。後白河帝と立ふ小より、崇徳帝こそを情りぬひ密に左府頼長と譏る然る小上皇崩む保元元年この隙に乘り諸國の軍兵を集む當今後白是を聞し召檢非違使平基盛以下の諸士小命して洛の口を護衛志むら、頼長宇治より間道を経、田中殿崇徳上皇の官小至る参議教長以下の将士二十餘人來り赴き且六條の廷尉為義と召を為義再三辞せれども御許しあし、於て其子息頼賢頼仲為成為朝為仲を俱して田中殿小至る帝もす、源義朝平清盛重盛以下の将士を召て禁門を固む、は為朝計策を獻せといへども左府頼長用ひむこの事も聞て義朝帝小奏し速に軍兵を整へ、田中殿は寄る平清盛源頼政以下の諸将俱に發す新院方大、小勇威を震ふといへども竟に戦屈して敗れ上皇如意山に幸し頼長奔亡し流失、中て薨む、於て為義以下の諸將多く虜に就き刑せし、是為朝と伊豆の大島小流す因て天下且く靜謐を、あは權中納言信賴、道隆八世の孫ありさせる、戈徳なりといへども後白河の上皇の寵臣より夫は誇りて威を逞くす遂に迹衛大将と乞

上皇のまを許さんと、千時少納言信西とまを拒む、於て信賴大は、まを怨み既小謀反の志ありかくて平清盛烟を信西と結び威權熾なり、源義朝心中不平なり、信賴その容を窺ひ遂に義朝と黨して兵を集む、千時平治元年十二月清盛嫡子重盛を將て熊野に詣り信賴その虚を計り兵を發して、上皇を三條殿に圍み火を從て宮を燒上皇を御書所、帝を黒戸の御所に幽して自ら帝坐に登り軍兵を指揮を信西天文推歩小精し豫てその變を知り其身安穩なるまじきを計りて、上皇の官は往き官人を以て是を奏し直に南都に走り信樂山に、猶寢を齎生ながら土中に理まる、後信賴源の光保を遣し、おまを掘出して首を京師に梟を平清盛の愛をき直に引返し謀を以て、帝を已が第六波羅に迎奉、聖勅を受けて信賴義朝を討す、思源太義平源頼朝よく防禦す、志りまども軍忽小敗、義朝尾州に走り、長田忠致に討たれ、義平虜れ、小就き信賴も虜れて各誅小伏を頼朝誅せらまんとせしを清盛の後母禪尼の請に因て伊豆に謫せられ天下平均せり

保元平治鬪爭沿革圖

後白河天皇
二條天皇



鮮朝

蝦夷



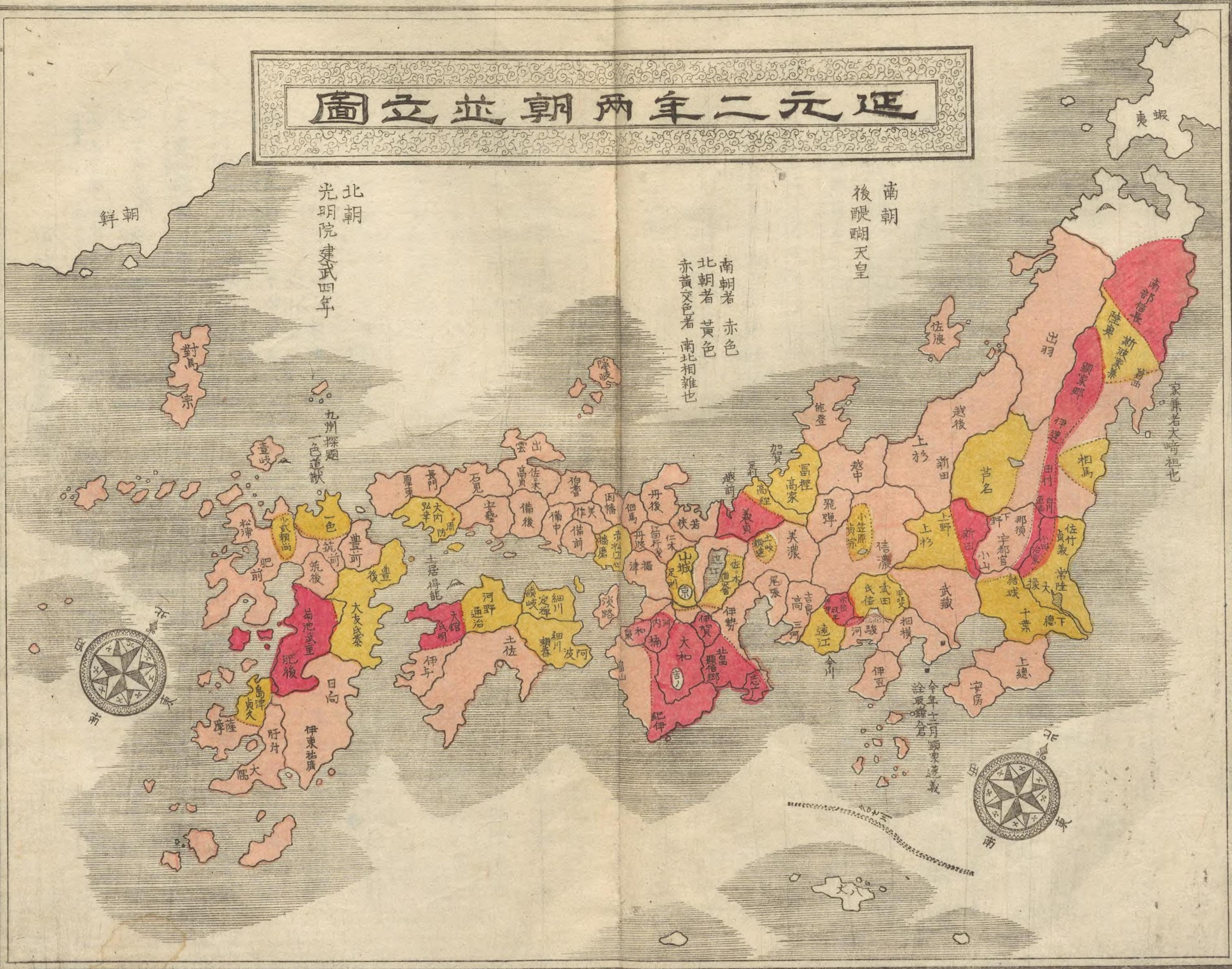
元暦元年公武治革圖

往年保元平治の乱より後平氏弥盛んにして相國入道浄海公清盛兵權を取て天下
 を掌中の物せし治養三年後白河法皇と鳥羽小幽閣白河一執柄基房公と配流し
 く政勢と恣はも源頼政おきを憤り高倉の宮後白河皇子とせめて諸國の源氏源氏を令
 旨と廻し平家と亡さんと謀りて遂に露刃し討ちての大军向ひしうバ宮を始め
 頼政父子敗死せり是よりつき諸國の源氏悉く討ちべき風況ありしと源頼朝
 兵と伊豆小峯げ源義仲ハ信濃に起る近國響の如く應じ勢ひ既盛なりその外
 南海西海の二道もろれ蜂起す○養和元年閏二月相國入道浄海薨す○源行家
 尾州墨俣川尾州のく平家と戦ひ敗す同八月陸奥守藤原秀衡秀衡を勅して頼朝を伐し
 む秀衡命を更ず○壽永元年城長茂を越後守に任じ義仲と戦ひしむる小利ら
 ず○同二年平雅盛等十万の兵と帥ひ義仲と加越の間を戦ひ大に敗しては
 義仲勝り乘じて京都に向ふ行家も兵と會す平内府平内府帝を供奉して西州に
 走し豊後の緒方雅義緒方雅義と襲ひたれば讃岐は渡り行宮と八嶋は管む○義仲京
 に入りしと里後白河法皇再び政と聴給ひ皇孫後鳥羽院と位に即ぬ義仲威を去り
 にす○此時平家四國と攻虜し筑紫を原田直直荷擔して漸く山陽道に至り
 まく十餘州を送へしうバ勢ひを得て攝州まで出張を是に依り翌は○元暦
 元年義仲出陣せし所その跡は行家心算し兵と起ると安て途中より引返
 す適頼朝其弟範頼義経と將として義仲を伐しむ義仲防戦し粟津まで敗死を
 両将京に入り進んと平家と攝州を伐し谷の城を陥す○文治元年平家累り
 小破を終し八嶋壇ノ浦の二戦は帝を始め宗族悉く亡ぶ是より國家の大權
 頼朝に飯せり其後從退補伐に任じ鎌倉と幕府と定め海内を指揮す○同五年
 藤原泰衡と討く奥州平々○正治元年頼朝薨じ長子頼家頼家に北條時政時政執權
 たり治世久しうバ弒せし弟實朝公立は官三公に昇し鶴岡別當公曉公曉に
 為し害せしる夫より後ハ政事皆北條義時義時の進退とありぬ

延元二年兩朝並立之圖

平義時朝威と怪しめければ 後鳥羽上皇送隣あきて鎌倉と頼むと謀りぬい
 一不どに義時弟の時房は長子泰時と將として兩道より進發せしむ宮軍にちま
 ち破る 三院東官これ遙鄙に配流せしむる義時ハ初く暴横とき止めしむ泰時賢
 明小く政勢正しく此在世のうちハ士民安息せり夫より後ハ君臣相疑ひて兵
 革やまず利さへ蒙古の寇襲ひ本るあうまども我甲士乃勇悍あるり 神靈の擁
 護ありしより賊船敗亡して國家の岨強なるを遠く吳朝の書小も記せし其後高
 時の代は玉より長崎園喜威福とせせども制する事あとも政道漸く衰へ遠境
 既く叛くものあり 後醍醐帝皇子護良親王大塔の宮と恢復と計りたまひし程に
 く露敷し皇子ハ遁れ潛む 帝笠置に籠りたまひしと六波羅勢あまをせ免落し
 帝と隱岐に移し奉る河内の楠正成ひとり勅命とせし兵と奉る高時大軍とを
 ハ攻囲む此時大塔の宮の令旨は依て諸國は義兵起り 帝の是都を催す予種
 中將忠成將帥とし播磨の赤松圓心先鋒とく京都に向ふ足利尊氏も是に加入り
 共六波羅と破る 〇關東にも新田義貞兵を上野に起しは忽ち多勢となり
 進んで鎌倉と責落し高時もいれ一族皆滅亡す 帝復位あり天下ふく、ハ皇室
 は賑す然る小建武二年尊氏鎌倉を據て上命に背きたれば義貞として征伐せし
 むるは利ありずしてふ
 延元元年東軍京師に逼る 帝おれと逃る 叡山に登る同二月義貞等戦ひ克て京
 師と復す尊氏鎮西に走り兵を集先大舉して上落を勢ひ甚況し宮軍敗績して正
 成湊川に戦死す 帝かさねて台嶺に遁る 〇尊氏則光嚴院の皇子 豊仁親王
光明院の皇子と
 立多建武の年号を用ひ此時皇師極盡に保ちしき小たり 和睦を乞て
 帝都に還幸し里に尋く花山院に逃るる義貞ハ一の官 右良を奉りて 越前へ趣
 く同十二月 帝逃走し吉野に入る是より南北兩朝となり 戦ひやむこせたり

延元二年兩朝並立圖



鮮朝

北朝
光明院建武四年

南朝
後醍醐天皇

南朝者 赤色
北朝者 黃色
赤黃色者 南北相雜也

夷蝦

家兼若大崎祖也



今年二月遷都建武
延元二年

元中九年南北盛衰之圖

延元三年北畠家（新田義貞朝臣沙界藤嶋）にて各戦死（り）より北朝の兵勢（さ）す（び）く強（つ）し尊氏三男基氏（もとむね）と以（も）て関東の総督（そうとく）とす○延文元年尊氏歿（ぼ）し世子義詮將軍（ぎせん）乃職をつぐ此間臣族の戦ひ南朝との争ひやむこせな（し）し義詮在職（ぎせんざいしやく）久（ひさ）しつ（つ）に其嫡嗣義満（ぎまん）いまだ幼稚（こうち）なりとゆへ（へ）も管領細川頼之（よりなき）は是を補佐（そさ）して南討西伐（なんたうせいばつ）の威（い）父祖（ふそ）より超（こ）ゆ肥後の菊池武朝（きくちぶさだ）も力屈（ちからまが）し高松より降を乞（こ）南方の邦域（やまのくに）日と追（お）く蹙（ぢ）する此時（このとき）は伊勢（いせ）は北畠陸奥（きたはたむつ）に伊達（いたて）南部（なんぶ）ありて推戴（おしお）乃忠と存（ぞん）といへとも或（ある）は孤軍（こぐん）に（こ）く對（たい）すゆは足らば或（ある）は路（みち）はるう小（こ）し多（た）勤王（きんわう）とかも事（こと）つ（つ）も（も）べ

今年（このとし）元中（げんちゆう）は玉足利氏大内義弘（おのちよしひろ）と以（も）て南北和平の議（ぎ）と奏聞（そうもん）し昔（むかし）のおとく皇統（こうとう）二流（にりゆう）とたて（て）替（か）る（る）く即位（きつゐ）つ（つ）べきとあり移（うつ）りて事調（ことしら）ひ（ひ）られ（ら）ば同閏（どうん）十二月（じふにがつ）は帝（みかど）京師（きやうし）より還幸（えんさう）あり北帝（きたてい）松院（しょういん）は寶位（ほうゐ）をちづりたまひ三種（さんしゆ）の神（かみ）も渡（わた）りたまふ依（よ）り北朝（きたう）より太上天皇（たいてんかう）の尊号（そんかう）と奉（ほう）らる（ら）る元延元二年（げんげんに）と元中九年（げんちゆうに）と（と）五

十六年と経（へ）て南北一統（なんぱいつとう）と及（およ）べり関東（くわんとう）は総督（そうとく）基氏卒（す）して後嗣（こうし）子氏満（しじま）造（ぞう）其子満兼（しじまかね）小傳（せうでん）ふ此間（このま）乃戦（いくさ）を別（わか）はるして（し）て（て）あ（あ）る（る）に略（りやく）を

元中八年（げんちゆうはち）小（こ）して終（はつ）り事諸書（ことしよしょ）を出（い）さり然（しか）る小菊池武光（こきくちぶくわう）を奉（ほう）せし征西將軍（せいせいげん）懷良親王（わいりやうしんわう）後醍醐（ごたいご）薨去（こうきよ）の後（のち）恭成親王（きやうせいしんわう）後村上（ごむらま）職（しやく）と（と）た（た）ま（ま）は是（こゝ）とも八代（やちだい）の官（くわん）又將軍（げん）の官（くわん）とも（と）稱（な）せり元中（げんちゆう）の末武朝（すえぶさだ）北朝（きたう）は（は）後（のち）ひ（ひ）は官（くわん）より阿蘇大官司（あそおほくわんし）は令旨（れいし）り夫（それ）は元中十年（げんちゆうじゅう）と記（し）せり其詞（そのことば）は云（い）く

九州再興事（きゆうしゆうさいかうじ）所被憑思食也（しよへいひんしじく）此時分舉義（このときぶんきよぎ）

兵者豊後日向両國守護職并肥後國八（へいしやうほうにかうりやうくわんしゆごしやくならびへいごくわんはち）

代莊河尻一跡三船一跡海東一跡并豊（たいていかわせういちせきさんふねいちせきかいとういちせきならびほう）

田莊等事可被知行由依 征西大將軍（たていとうじやうじやうじきやうしゆよゐせいせいおほげん）

官仰執達如件

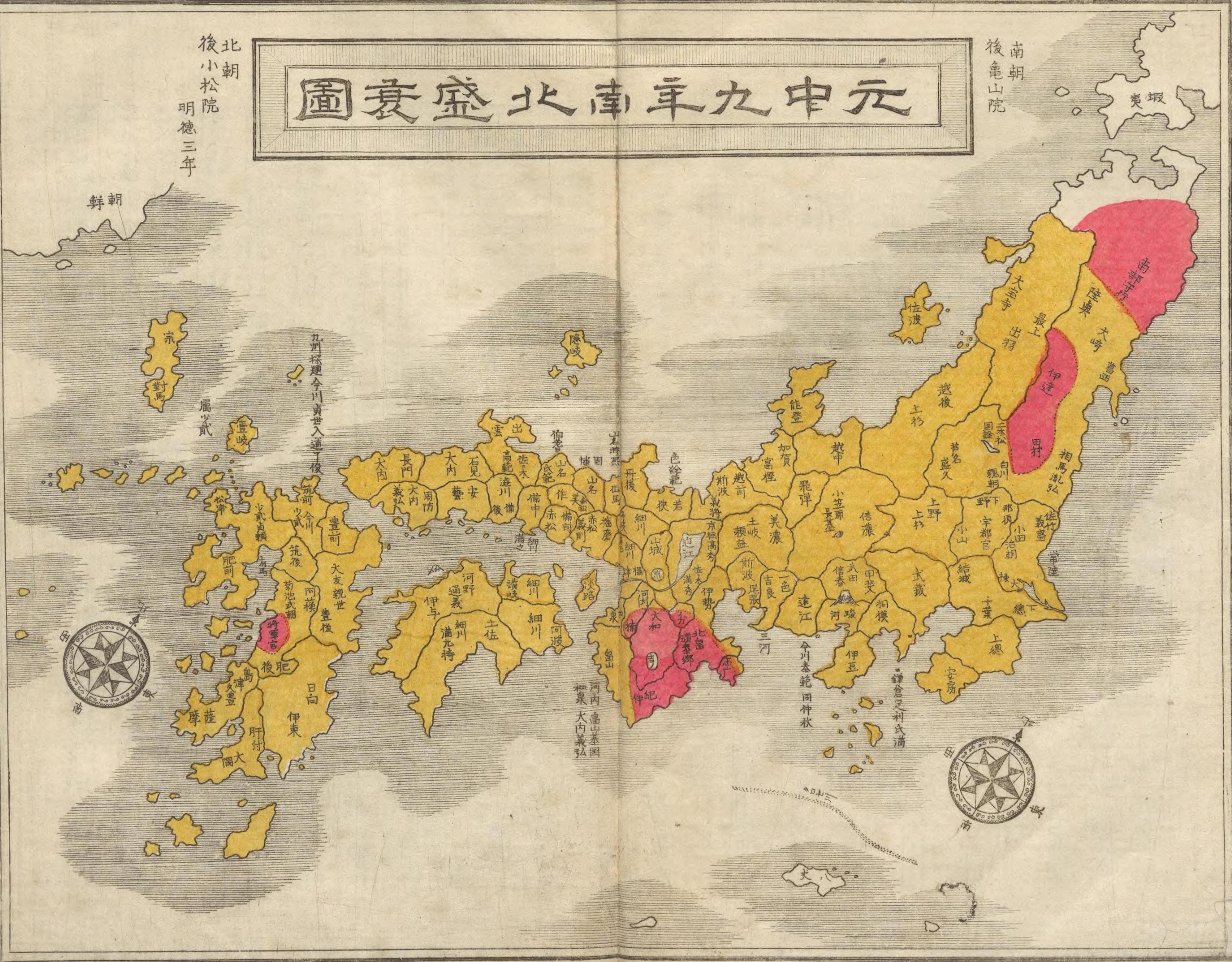
元中十年二月九日 實綱 左中將判

阿蘇大官司殿

元中九年南北盛衰圖

北朝
後小松院
明德三年

南朝
後龜山院



鮮朝

夷坂

宗
對馬

屬少貳

九州探題今川貞世入道了俊



河内 高田基國
和泉 大内義弘

鎌倉足利氏滿

今川泰範同仲秋

應仁元年東西干戈圖

應仁元年義滿公將軍職を嫡子義持公にゆづる此時少くも母かまるといへども兵
草やはす其嗣義量將軍早世の後義教公義滿公の三男とあり一宗院門法義を聖俗して職を継ぐ性質嚴
刻にして刑罰を専らにせしうバ臣庶の心を恨み諸國を強亂起る關東の結登
持氏滿兼の長子執事上杉憲實と隙あり將軍もとり鎌倉を亡さん心有り故上杉を
助けて兵を東國を下す○永享十一年持氏戦ひ敗れて自殺すこれち憲實と
關東の管領といは上杉ハ今度の弓箭本意は出されバ不とかく逸世し弟清方監
國を○嘉吉元年赤松滿祐性異道義教公を弑して播州を據る京軍これを攻て克す
猶る小山名持豊但馬より討入り滿祐を誅す其実として關國を與ふ義勝將
軍立て聞かく天世し弟義政公嗣ぐ○寶徳元年東國穩々からける小たり舊臣
の請は任せ故持氏の末子成氏と主督として憲實の子憲忠と管領として鎮めし
む厥后成氏父の仇ありとて憲忠を誅せしうバ關東を亂る○長祿元年將軍弟
政知と總督として上杉と共に成氏を討しむ義政公温素として風雅を好むとい

へども政は急り衡量平からば

今年應仁細川勝元山名宗全指を權を争ひ京師の東西より各十餘萬の兵を擁し抱み
戦ふれとせは應仁の大乱といふ此軍數年を経る故小花洛も荒涼の地となりぬ
○赤松政則兵を遣し山名と戦ひ播磨備前の舊領を復す○文明四年將軍の
職を世子義尚公に譲り後年東山は閑居を○同五年三月宗全病死す勝元も同八
月を逝去し長子政元其衆を領せり山名黨降る者多し○同九年東西の軍散し
て京畿や静ありといへども諸國ハ刻抜し多く乱る○長享元年江州の六角高頼叛す將
軍自是と征す○關東は上杉建武二年指して成氏方と東國三分す○同二年本願寺門徒加賀を打
從へ能登越中も既は保せむとす此戦は富樫が政親亡ぶ○延徳元年義尚公薨す長先嗣子無
れはもつて義植卿義政公の子を將軍とす○同二年政知伊豆の堀越を逆す北条長氏伊豆をせ先
元は○明應二年高山義豊叛く將軍征伐の爲河内へ出陣す猶るは細川政元宿意ありて其營を
襲ふ義植は越中を遁る政元義澄卿の息と立ち近國を討平く○同六年成氏古河小て逆し
嫡子政氏継ぐ

永正六年兩管二川分争圖

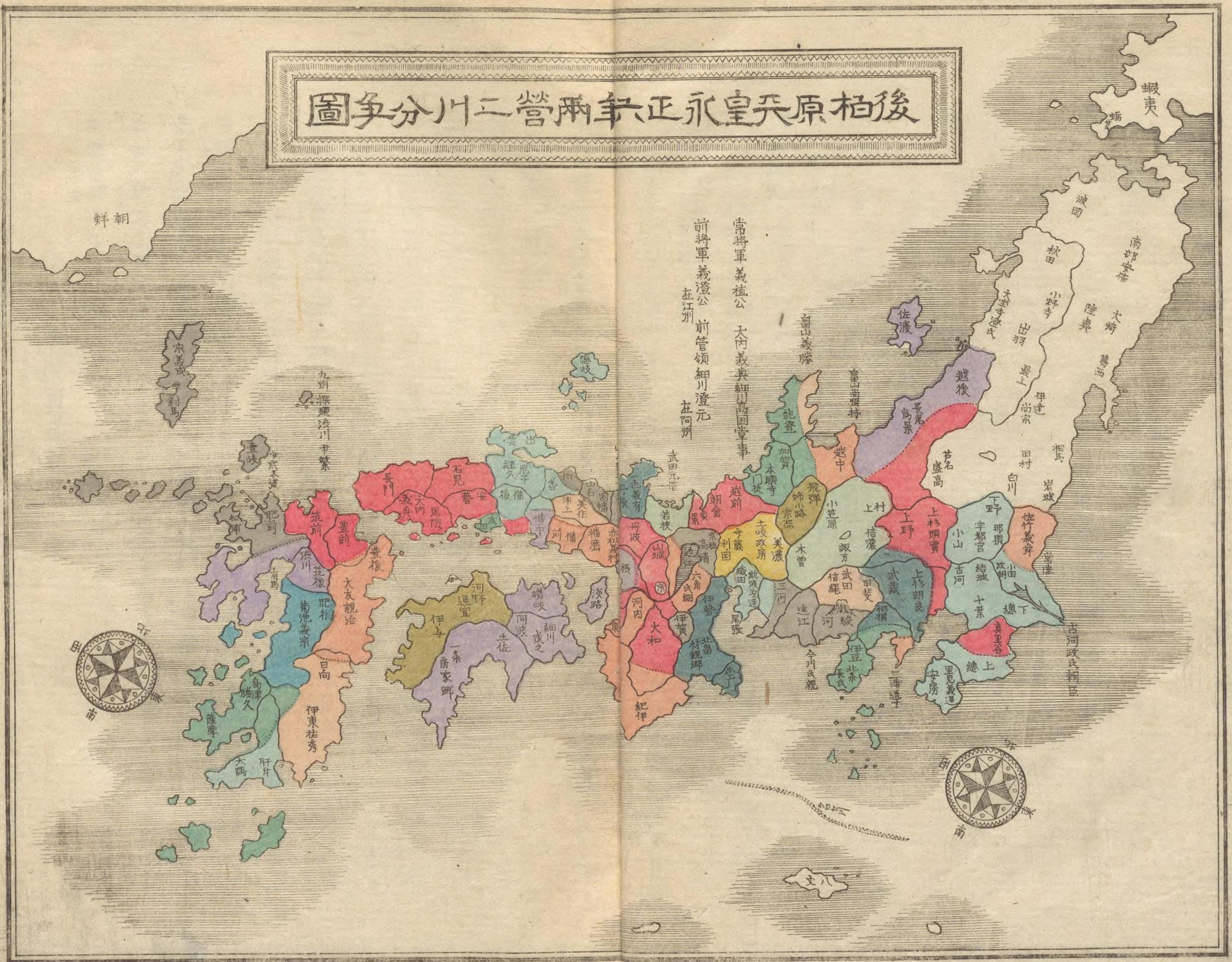
是より先き管領細川政元ハ九條政基公の公達茂養子とて澄之と名付く其後
又同氏成之此子澄元と養ひく子と成り○永正四年政元等の小臣の爲小害せら
る香西元長と澄之と主事三好長輝ハ澄元と立合戦す香西敗死澄之も
自殺此乱に乗じて周防の大内義真前將軍義植と誘ひ大軍と起り上洛を
細川高國は是に應じられバ義澄卿並びに澄元京師と出奔を義植卿入京より
てぬらび將軍は但し義興高國ホその政を掌る

今歳永正六年長尾爲景其主上杉房能と戦ひて越後とすむ○同七年上杉願實入
道可淳舟越後り於て爲景と合戦して敗死す養子憲房管領と成り○同十六年
北条早雲ハ平一長子氏綱嗣ぐ○同十七年三好長輝京を攻め克す其の両子
と共に討る○出雲守護尼子經久漸く盛ん小して近國を併呑し大内と争戦す
○大永元年義植卿高國と不和ありてつへ京とさき淡路を移るありは於て高
國前將軍義澄の嫡子義晴卿とむえり將軍と成り○同二年前將軍義植卿阿波

まで薨す○三好長基故澄元の子晴元とたて高國と合戦す高國ハ毎度利が
きちへ浦上村宗と頼む浦上美作備播の勢と催し攝州に出張して晴元三好と
戦ひて敗績し常桓村宗も死亡す長基大功あるよりつて其の威三軍を
治り晴元もこれを思て現しつる

土佐の國ハ元來細川家の管領すと出ぬかり
志らばは近年兩細川のつらひ小て其の國境
監するに其後かきより國人たがひは控えたり
うふ安藝本山等お激して一條房家つと備多
郡は請り主盟とせしむる國中漸く静澄す

後柏原天皇正統二年兩營分川圖



鮮朝

蝦夷

常將軍義植公 大內義興細川高國堂事
前將軍義澄公 前管領細川澄元
在江州 在阿州

九州探檢淡川中繁



弘治二年列國割據圖

京都種乱よつて將軍義晴公おれと巡り北條くハ江州朽木小左り○天文元年細川晴元三好長基入道海雲と殺す○同七年北条氏綱氏康父子下總國府臺より足利義昭入道政氏の子里見義虎安房守合戦りり北条勝利と泣く義明討死と是より氏綱の威武遠近は振ひり同十年は逝去と氏康嗣ひで愈々の地と廣む○同十一年長尾為景越中は攻入て敗死す○同十四年義晴公將軍職と世子義友つり譲る後義輝と改細川晴元三好長慶海雲の子と戦ひ属敗り孫若の六角義賢が援と使とす○同十六年再藤道三秀就その守護土岐頼藝と遠く美濃とらほふ○同十九年前將軍義晴公江州にて薨す○同二十年陶晴賢其主大内義隆義興の子と弑し大友義鎮の弟義長と逐へく主と權柄と恣とす後全義○大友義鎮肥後と定む○上杉憲政憲房の子氏康と戦ひ負争越後に至り長尾景虎は倚り後そのが勢とちづる

今年弘治二年將軍義輝卿いさゞ江州に在り○陶全善大共を卒して安藝の毛利元就と伐ち嚴峯り渡りてまゝ大に敗れて自殺す元就の嫡子隆元次男小早川隆景三男吉川元春とこり勇略りり此一戦より近國風ををみく降参す連ひく周防長門へせ免入りみ大内義長防禦の策窮り自滅す毛利それより尼子晴久経久の嫡孫地をとりそひくつらうを海はむ○同三年將軍義輝つ三好と和睦すのハ京都は帰る長慶畿内南海の權とて花り○永禄元年元就備中備後と略す○同三年今川義元共威強く駿遠参の軍と率ひて尾州とせむ織田信長ぬせぎ戦ふ義元桶狭間に多討死す此より信長の武名かくれふくつ海とよまゆもの多し○毛利大友と豊前は對戦す○上杉景虎大率して北条と討つ上州より武州に入望年の春小田原と攻む關東の諸侯これ其の辭令り遂に兵勢最さるむかり

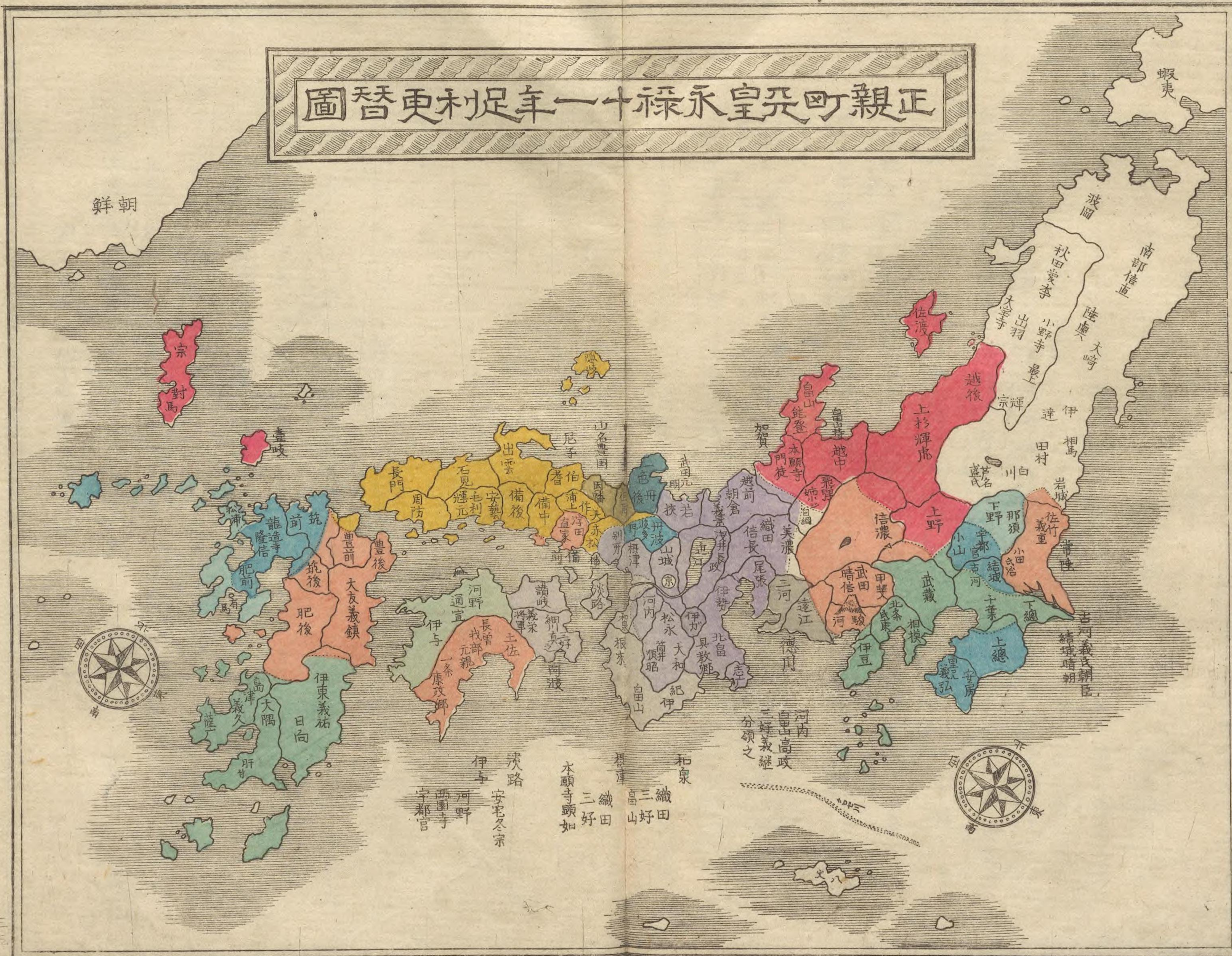
永禄十一年足利更替圖

永禄七年三好長慶逝十一年の子養子義継長慶の甥の家をつぐ一族長源等三人
元と号し兵權を執り將軍義輝公と稱りり○同八年三好が黨にえうは室
町の管攻む義輝公勇戦して自殺す家に於て三好が黨阿波をり義栄とむら
へて主と次受継の子翌九年は至り將軍は但ず松永久秀ハ長慶存生比以權
勢りりしが三人衆と不和小して合戦り及ぶ河内の畠山高政と松永ハ助勢す
○元子義久晴久の子毛利の圍とる多事數年術つき降参る○同十年三好義継
その一族とえむれ松永り合作り

今年永禄乃春信長伊勢を伐○同し秋信長義昭邸を義輝公の弟の邸供奉しり六
角承禎義昭の弟を攻く江南伐陷す是を聞る三好ホ退きて河攝の諸城をばむる信
長もむむ京都入り兵をばむる近邦をまむる義昭邸在洛乃後將軍は
任ず信長も同十月は帰國し又兵を伊勢り出して諸郡を畧す國司北畠具教は
和法りりて信長の子息信雄と猶子る○永禄甲斐の武田晴信入道信玄今川
氏と逐て駿河と取り参州り約して遠江をわうち治む○毛利元就ぬと

たび豊筑り兵伐渡りく大友義鎮と對陣す其虚とるひ元子乃舊臣山中
幸盛元就の弟元子勝久と並り立く主將とし出雲は起は又備前の宇喜多直家と備中伐
侵す
翌十二年勝久雲伯隱乃三州を復す○同年の冬毛利豊前と王帰陣○元龜
元年輝元元就の子兵伐出して勝久を撃○宇喜多直家と美作の浦上宗景とを
たうひりか毛利り降りて援兵と乞ふ○同二年元就逝去り輝元そ
の業を継ぐ○同三年輝元雲伯ホ乃州郡を畧り勝久敗りく因幡を
去る○土佐の長曾我部元親漸く強りく近隣を併せ侵す

正親町天皇永祿十一年足利更替圖



鮮朝

蝦夷

波岡

南郡信直

陸奥大崎

秋田愛李

小野寺景上

越後

上杉輝虎

信濃

上野

下野

那須

武藏

伊豆

伊勢

美濃

尾張

信長

織田

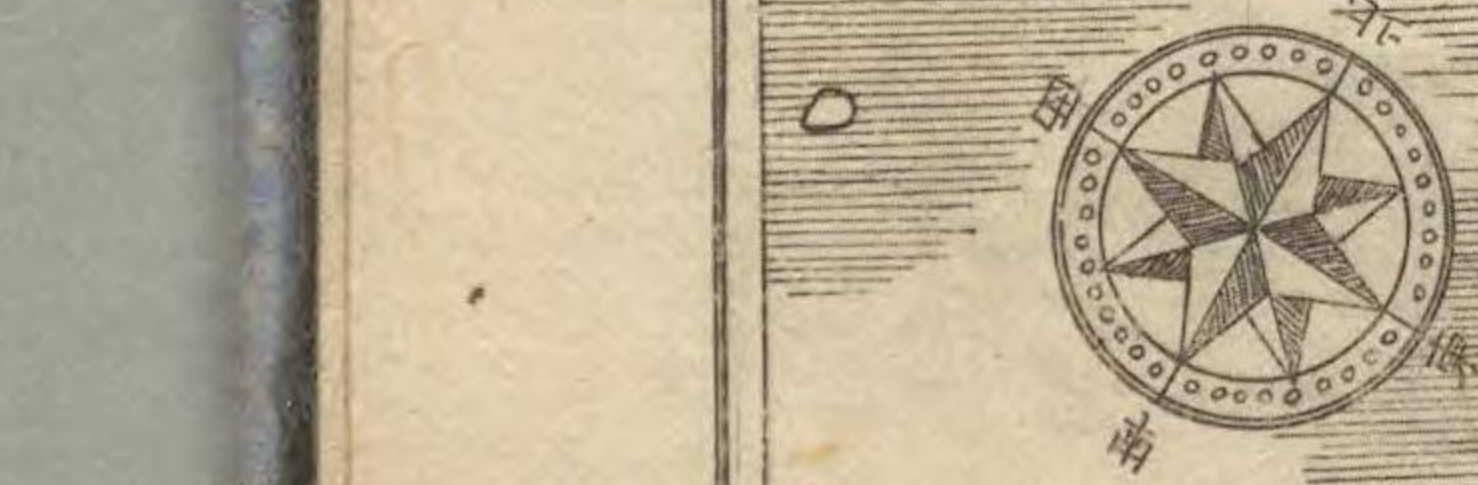
三河

遠江

德川

河内

白河



伊予
河野
宇都宮
淡路
安宅冬宗
水願寺頭如
三好
織田
三好
和泉
三好
織田
三好
島山

天正五年雄傑争衡之圖

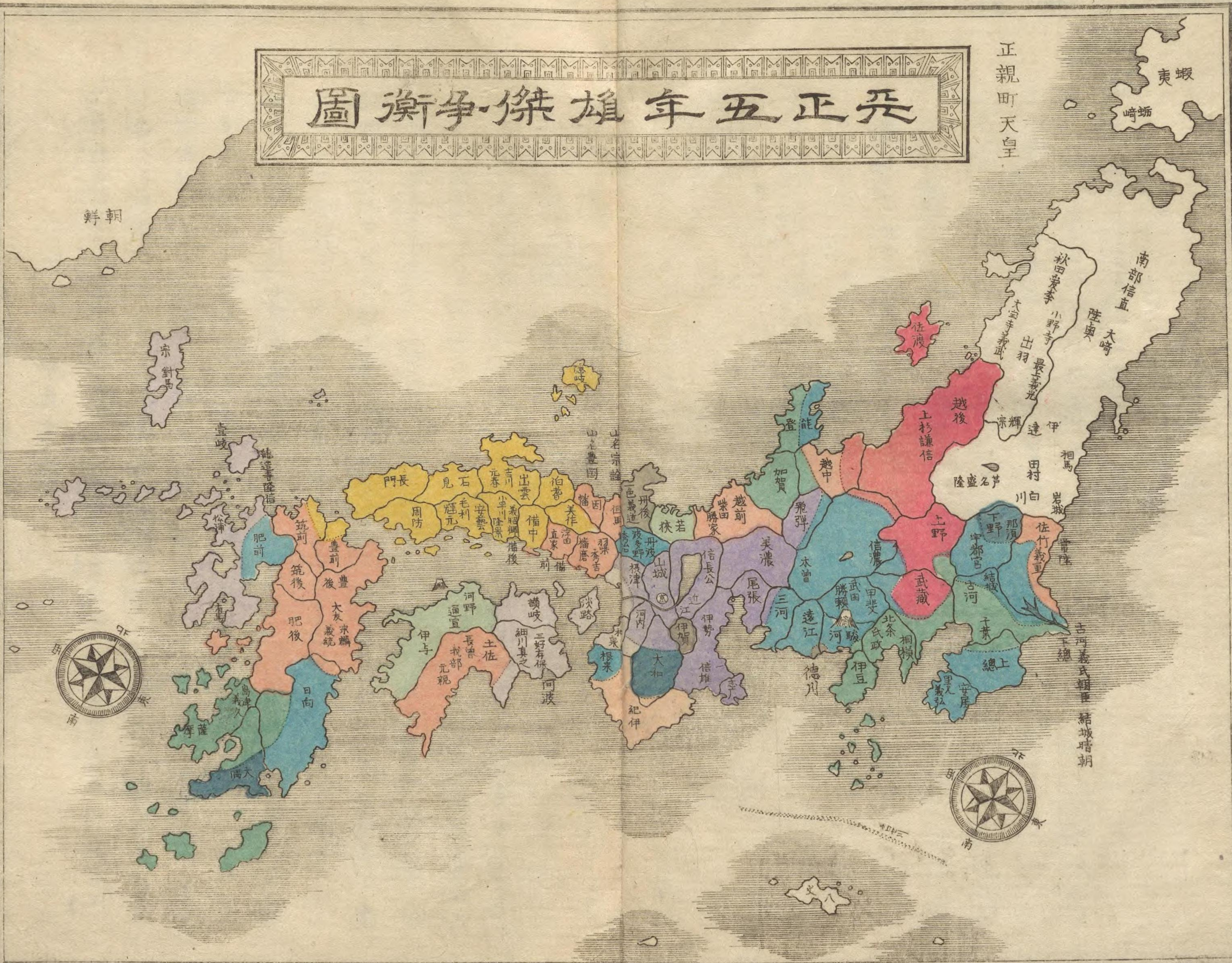
足利將軍義昭あしかが郡ハ信長しんぢやうヲ權勢けんせい悉ク在あル其の制せいとウク取とルと添すク憤いリ天正元年石山寺いしやんじヲ城壘じやうらいと據とヘク槍銃やうじゆうヲ信長しんぢやう將士しやうしと遣つハシ是こゝヲ責破せつぱシ義昭ぎしやう郡紀州ぐんきしゆヲ退走たいそうス同年四月武田信玄むつたのしんげん率しゆテ勝頼かつらう其家そのけとツグ○信長しんぢやう江北かうぱく越前えちぜんヲ伐はク朝倉義景あさくらぎけい淺井長政あさいぢやうぢやうと亡なシ○吉川元春よしかわげんしゆん因幡いんぱん伯耆はくしよヲ攻せム両山名りやうさんなとも毛利家もうりけヲ從したがフ○同二年輝虎てるこ入道にちだう謙信けんしん越中えちゆぢうヲ討入うリ能登のうとんヲ取とリ○同三年義昭ぎしやう郡中國ぐんちゆうこくハハシリ毛利もうりヲ憑たシ輝元てるもと是こゝヲ里京都りきやうとへ護送ごそうの兵へいヲ催もよほシ○同四年信長しんぢやう濃州のうしゆ岐阜ぎふヲ江州かうしゆ安土あづの城じやうヲ移うつシ其後柴田勝家しばたのかつやヲ命めいトシテ北國きたく伐討はつたうシテ免羽柴秀吉めんうしばひでゆきヲ播州はうしゆへほうス○山陽さんやうヲ略りやくシ

今歲こんさい天正てんせい五年宇喜多直家うきただちか浦上宗景うらかみむねかげと合戦がっせんシ小早川隆景こばながたかかげ宇喜多うきただとたもけく浦上うらかみと破やぶリ美作みさくヲ取とリ是こゝヲ後のち宇喜多直家うきただちかハそウに秀吉ひでゆきヲ通とほズ○日向ひなたハ伊東義祐いとうぎすけ薩摩さつまの嶋津しまづ義久ぎきうと數年すねん地ちと争あヒテ○叛臣はんしんヲりて戦いくさハ敗まリ豊後ぶんごヲ去さテ大友おほともヲ倚よシ○同六年三月上杉謙信うえんせんしん逝去せいきよシ養子やしゆ景虎かげとら北条氏康きたうぢけい景勝かげかつ一族いちやく改承かいかうの子こ

送跡いせきとウクそハ合戦がっせんハおとぶ武田勝頼むつたのかつらうハ勢せいハ景虎かげとら自殺じこくス○信長しんぢやう郡細川ぐんほがわ藤孝ふじたかヲ令れいシテ一色いっしきヲ伐はチ丹後たんごヲ略りやくシ○羽柴秀吉うしばひでゆき播州はうしゆヲ拔ひキ尼子勝久にしよかつきう小上月こづつき乃城のじやうヲ守まもリ○小早川隆景こばながたかかげ吉川元春よしかわげんしゆん大軍たいぐんヲ以もつテ是こゝヲ圍こム信忠朝臣しんちゆうてんしん後援ごえんトシテ發向はつかうシテ○地利ちり便べんありざるヲ里軍りぐんヲ破やぶリ勝久かつきうハ術じゆつつきまじく自殺じこくシ山中やまぢゆう鹿かハ助幸すけさう盛さかハ途中ちゆうぢゆうニ討うチ○大友義鎮おほともぎぢん伊東義祐いとうぎすけ復入ふくにりのを免めん薩州さつしゆ義久ぎきうとせまじく敗績たいせきシ是こゝヲ里九州きゆうしゆのうち大友おほともハそむくもの多おほシ○長曾我孫元親ちやうそがそんげんしん阿波あま讚岐さんぎヲ略りやくシ三好存保さんこうぞんぽ防戦ぼうせんシテ利りあり○秀吉ひでゆき毛利もうり但馬たにま因幡いんぱんヲ治ちス○武田勝頼むつたのかつらう上州かうしゆヲ出張しちやうシテ北条きたうぢやう方の諸城しよじやうヲ陥おとス○肥前ひぜん乃龍造寺隆信のりゆうぞうじやうらうしん勇猛ゆうまうハ○兩筑肥豊りやうぢくひゆゆヲ攻入せリ大友鳴津おほともなるづと鼎足ていそくのいき不ふハとナす○同七年信長しんぢやう公惟任こうただしん日向ひなた守光秀しゆけいヲ命めいトシテ丹波たんぱヲ取とリ○波多野秀治はたのしゆぢ治ちス○此年このとし宇喜多直家うきただちか卒すス

正親町天皇五年雄傑爭衡圖

正親町天皇



鮮朝

宗對島



夷蝦

崎嶇

南部信直

陸奥

大崎

秋田康季

小野寺

最上義光

出羽

宗輝

達

伊

相馬

川白

岩城

菅野

古河義氏

結城晴朝

下總

上野

那須

結城

古河

武藏

信濃

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越後

上杉謙信

越中

飛騨

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

能登

加賀

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

越前

美濃

尾張

三河

遠江

德川

伊豆

相模

北条

武田

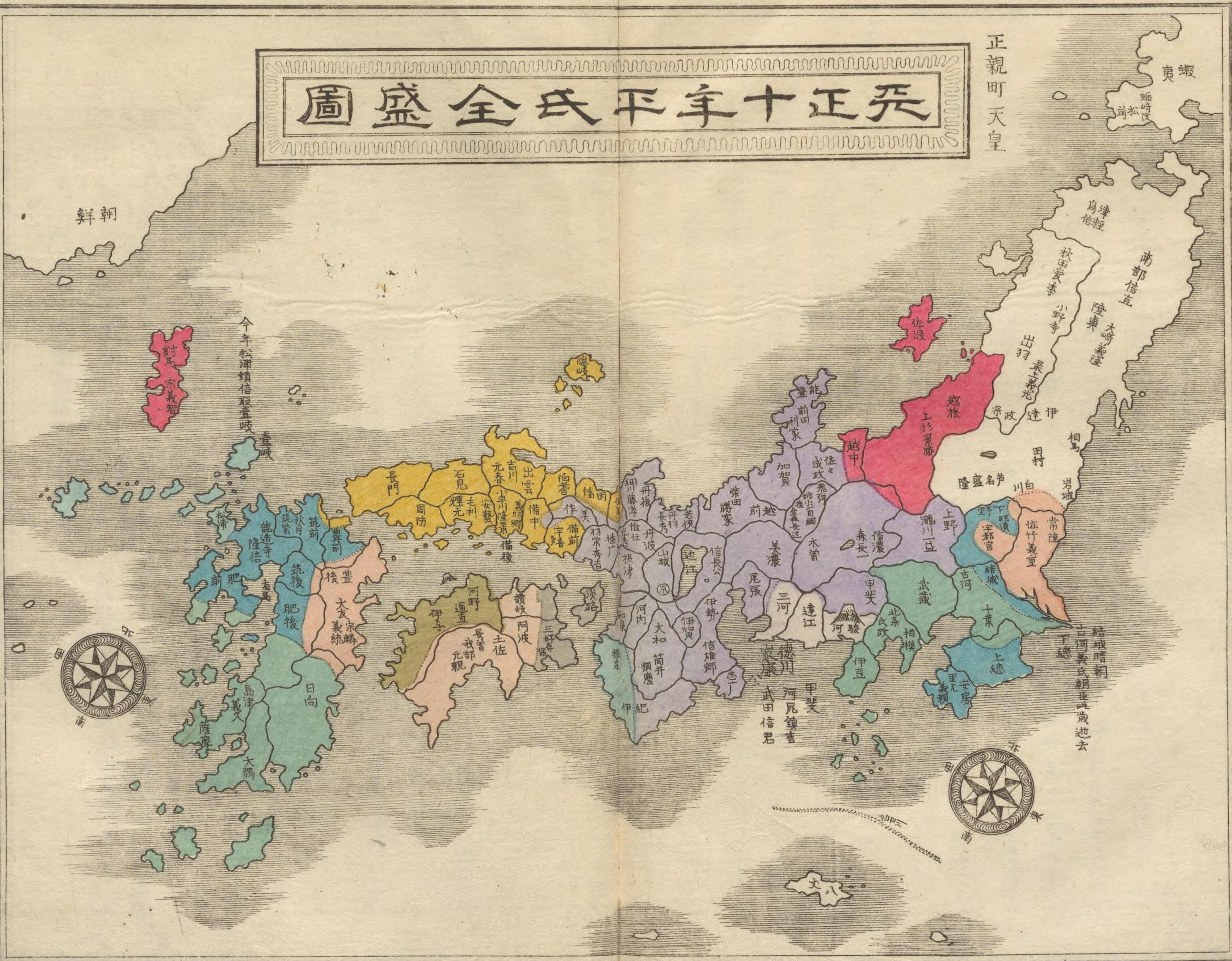
天正十年平氏全盛圖

二月織田信長公武田家を伐信忠ハ先達ニ發向リ美濃信濃の諸城を下
一進入て甲斐の國へ勢先入は武田勝頼敗走リ天目山にて戦死を同三
月信長公も既ニ到恙リ瀧川一益ノ功を賞一上野一國ニ信州佐久郡等
を以テ(関東の諸軍事を統領せ)む甲信駿遠四州の地も又かのく
頒ち授く○柴田勝家森長一と道を分ち上杉を伐ち景勝と信濃
越中にて合戦も○同四月羽柴秀吉備中よせ先入リ毛利と對陣して
援兵を安土よとふ依て惟任日向守光秀池田信輝等をはうハ一多のち一先
又三七郎信孝信長公三男丹羽長秀等を以て我々四國の長曾我部と討しむ
信長公もほひく出陣のを先京師に至ふ同六月二日の曉惟任光秀叛逆
一多信長公此旅館本能寺と發ひく是を弑も信忠卿ハ妙覺寺に在り
二條リ於て戦死一多ハ乃變事を多かり諸國大ニ擾乱せり
爰ハ羽柴秀吉を毛利と備中よ對陣せしガ和法して攝州リ入リ

三七郎信孝丹羽長秀中川清秀高山長房等の兵を會し山崎ふく惟任光秀
と合戦も惟任大ニ敗一多小栗栖は走り農兵のを先は討は是を羽柴
秀吉乃威名遠近よとふ海く○六の念礼伐伺ハ長曾我部元親阿波をせ先取
伊豫を侵も小笠原貞慶ハ木曾義昌を逐ひ將く信濃の本領を取かへす
○羽柴秀吉故信忠卿の幼息三法師後秀信を以て嗣主とす一多は流兵權
を執る○同十一年三七郎信孝柴田勝家尾張越前より兵を率く秀吉を伐つみ
な竟む一多ハ海ぶ秀吉乃猛勢すべく強大かり秀吉加州前田利家の
雄略もく一多を以て北州乃總鎮とす○同十二年秀吉大率一多伊勢リ打
入リ諸城を下し尾張小む信雄ハ力微し一多防ぎかしく援兵を
駿遠は請ふその孤弱を憐み給ひく意トぬハ一多同四月羽柴尾州を
一多轉トく参州伐侵一多小牧長久手ハいま里て大ニ敗績す我々のち
和睦すのひ一多里志む一多兵乱をたさす

正親町天皇十年壬午平氏全盛圖

正親町天皇



鮮朝

東蝦

今年松浦鎮信取置岐

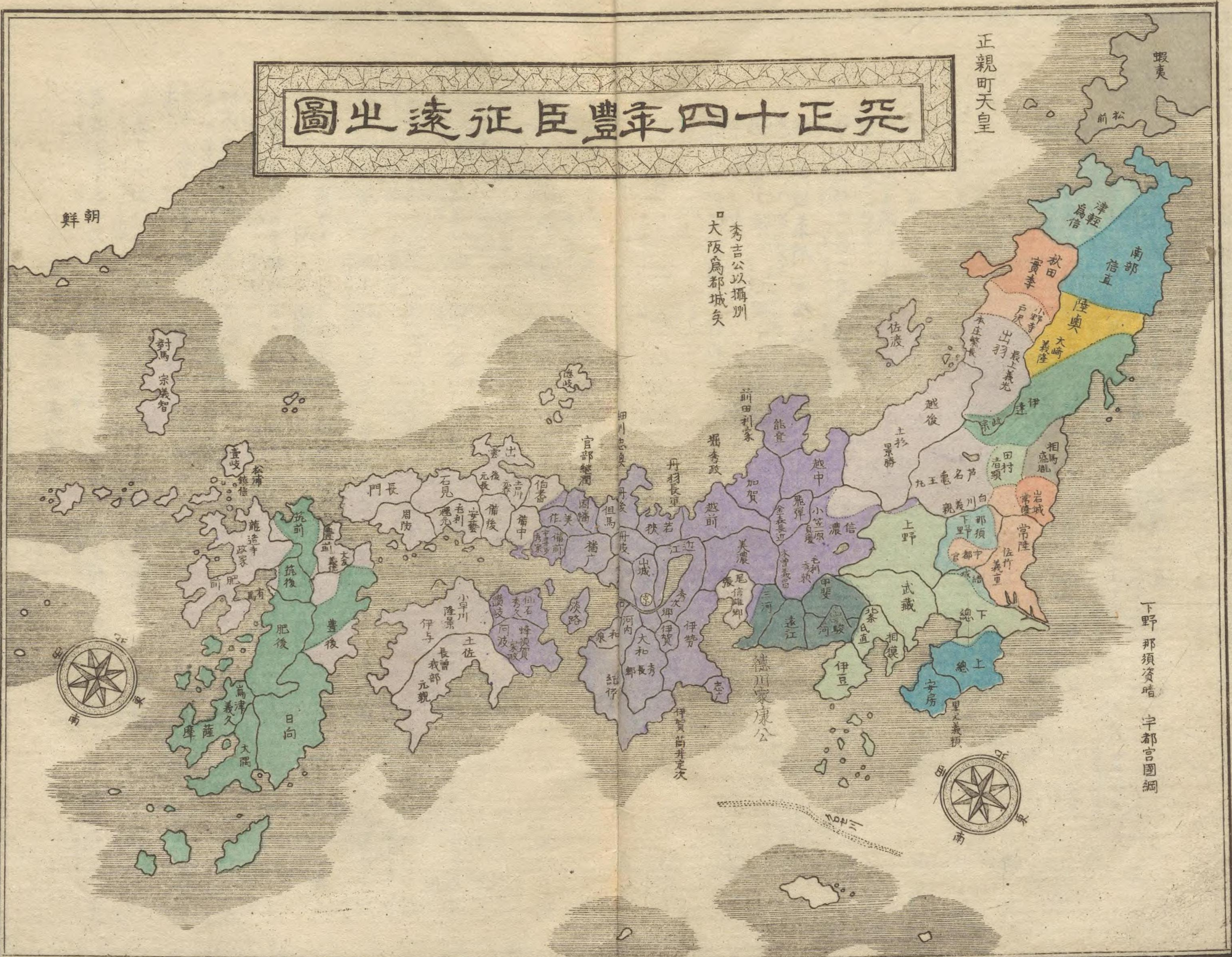
結城暗朝 古河義氏朝在此歲逝去



正親町天皇 正統四十一年豐臣征遠圖

正親町天皇

秀吉公以攝州
大阪為都城矣



下野那須資晴 宇都宮國綱

鮮朝

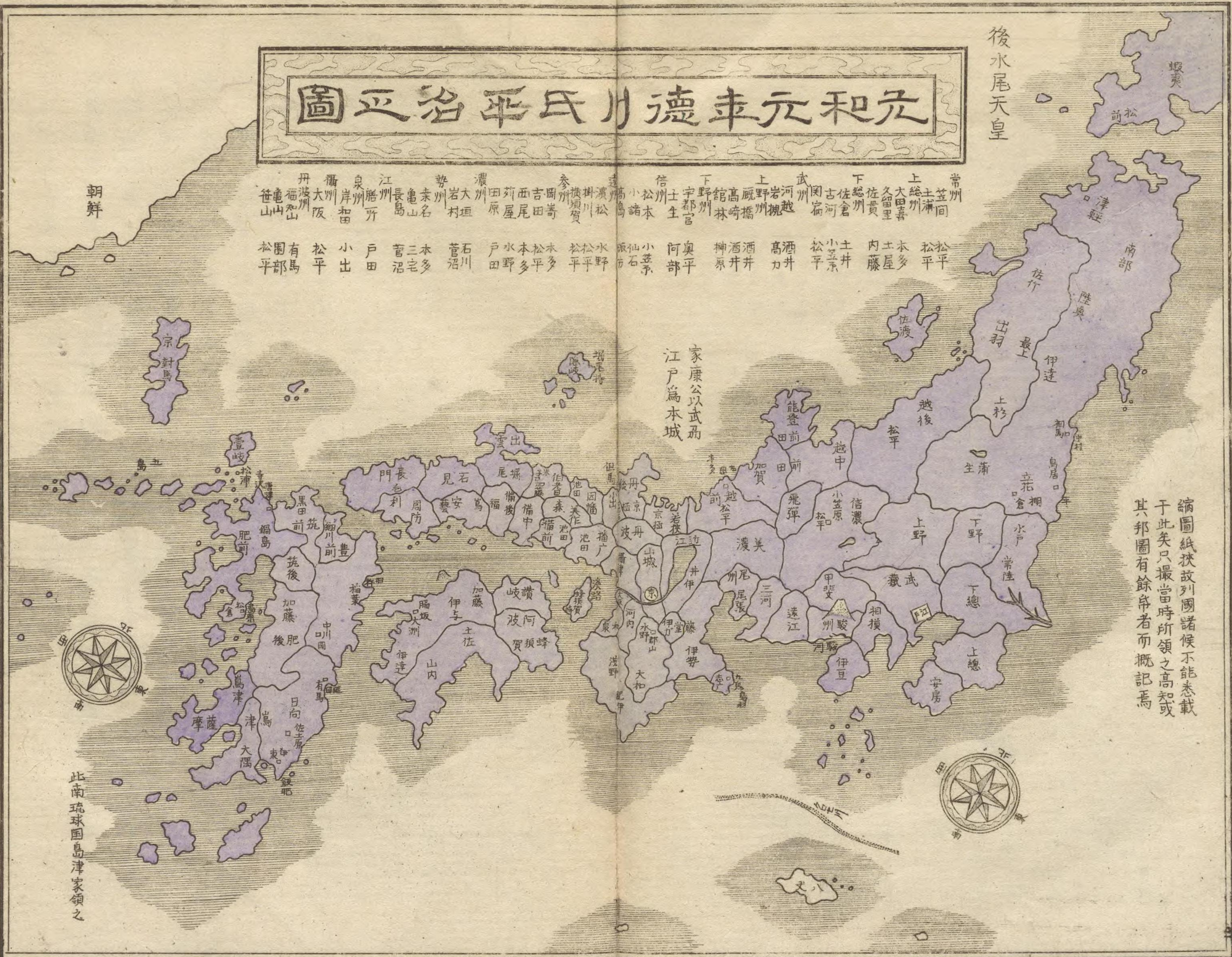
元和元年德川氏平治之圖

慶長五年冬十月江州佐和山の城に石田治部少輔三成叛逆を企く幼君秀頼公の命と偽り小西行長安国寺惠瓊偕と欺き五畿北陸西海の兵を催促し徳川家康公を討亡さん堂大軍を率し馳對ふ処家康公是天下の一大事ありと大に愕き玉ひ石田偕の逆賊を撃平さんと數万騎を引率し濃州関ヶ原に於て闘戦す時は石田の自軍の將は家康公は翻攻をおは是に於て忽ち總頷れとありて敗北し三成を殺め小西安国寺偕虜とありて三河河原に梟首とふす同六年上杉佐竹乃西將家康公は降る同十一年江戸の城成就す同十六年家康公上洛りて二条の城に於て秀頼公と對面はは這時加藤清正秀頼公を守護して大坂に飯城に後清正本國隈本の城中に病死す前日関東乃命は因て秀頼公洛東大佛殿を再營ふし梵鐘と鑄る南禪寺の長老清韓僧鐘の銘文を作す処文中に不審の語ありとて関東乃指圖に因て文字を削らす是より関阪年指し及び豫て秀頼公を糾さんと同十九年冬家康公并に江戸將軍秀忠公の西將五十万余騎の大軍を率して大坂城を責亡さんと馳對ひ玉ふ大阪

城中小も防禦乃隊伍とおし真田幸村軍師と司どりて軍配をおす故関東の大軍幸村の奇計はかりて屢敗軍小及び討死をおす將數万騎後和睦をおして送り替書と取て関東の諸勢陣を拂ひて飯國をお死る小秀頼公盟約は叛しつゝ家康公怒て翌元和元年五月若び大軍を發して大阪城を攻る木村重成後藤基次薄田隼人長曾我部元親偕の勇將討死おす東軍威ひし乘下て奮戦ふし源忠直幸村の隊伍を撃破し幸村を討つ是よりよつて大坂勢總崩れとあり東軍の隊小討取頭一万五千余級忠直城中へ先登して塞樓々々火を放ち燒立る秀頼公同く母公淀殿自殺おせば這時御側小従ふ輩二十四人伏劍を其外婦女十余人殉死す豊臣家三代是より滅亡おし徳川家平治乃天下とありとす

元和元年氏平治圖

後水尾天皇



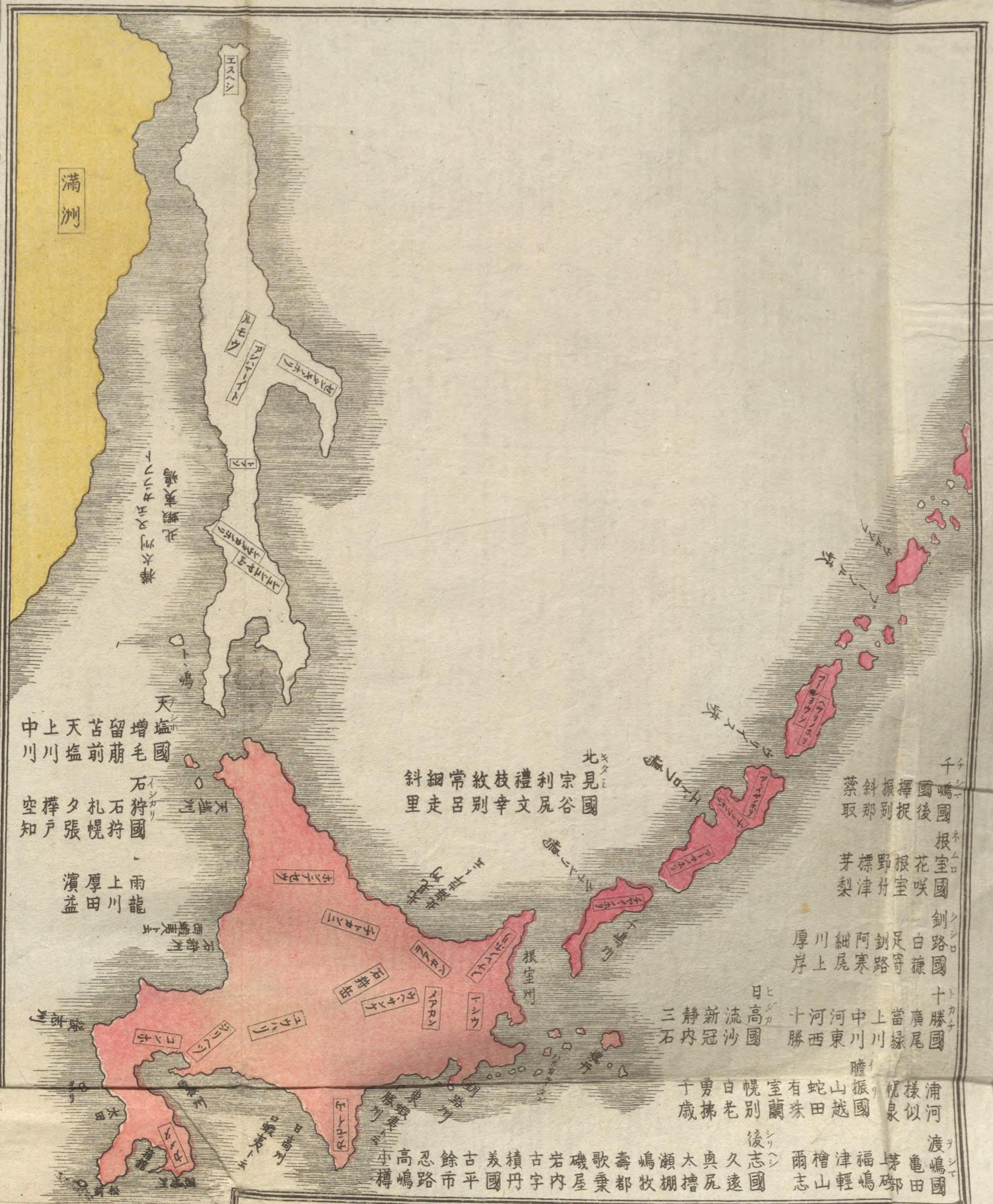
縮圖紙狹故列國諸候不能悉載
于此矣只撮當時所領之高知或
其邦圖有餘帛者而概記焉

此南琉球國島津家領之

明治紀元戊辰 王政御維新政國圖解

慶應元年乙丑五月徳川十四代將軍家茂公長洲を征伐せんと麾下數
万騎を引率し江戸進發ありて大阪城より二月六日先鋒の軍
兵長門に進戦し利ありて八月家茂公大阪城中に於て病歿す
是より先鋒の軍悉く大阪に留まり然して家茂公天子
の命に依り嗣子ありて因て支族一橋中納言慶喜卿を後嗣とす
征夷大將軍を任ぜしむる業をつらぐ再び長洲を征伐せんと
欲ししに忽天下多事あり遂に將軍職を辭し大阪城を退去せしむ
元年戊辰正月三日松平容保に謀り俄に大兵を率し入京せんとけり
諸侯をめぐり九門を護せしめ及び要路に防禦の兵を設置せしむ
兵まづ伏見鳥羽淀に戦ふ是より仁和寺宮純仁親王を征討將軍に任じ東軍を
討しめし捕葉橋本に於て大に戦ふ 官軍勝利あり東軍大に敗り大阪より
退く就中紀州を走るもの多し同月九日薩州長洲の軍大坂より入る慶喜三
四侯を従ぐ軍艦より江戸に遁返る 征討大將軍大坂より進軍し敗残たる
兵を平すし三月

天皇関東御親征の治兵として大阪より 行幸ありしに
てゆい慶喜罪を謝して江戸を出て水戸に退き謹慎す麾下の士上野東叡山より屯
據し兵勢益盛なり同五月十三日 官軍上野を火攻す東軍より退く
走す而してのち武蔵の間を於てあぐり戦争あり東軍利ありて敗走し獨容保
王命を奉せしめて関東脱走の士を輯め居城に楯籠り益不順の志を逞
し兵勢北方に震ふ又伊達上杉酒井南部の諸藩會津に應援す 官軍大舉
る大に討伐す又北越不 朝の藩あり長岡牧野巨魁としてあぐり戦ふ同七月
江戸を東京と改号せしむる九月
天皇 蒼生御綏撫のため東京より 行幸ありしに同月廿三日會津降る是より於て
奥羽北越の擾乱とぐり鎮静す同十二月陸奥を割て磐城岩代陸前陸中を置
て以上五ヶ國と出羽を羽前羽後の二ヶ國に分割す於是天下咸く 王政を復し
天皇 龍興の時勢仰惶ふし人々の通ざる所霜露の墜る所凡人尊親
せしむる一宣圖らんや一裘褐を更めて天下静謐を治り御代萬歳を唱ぬ
るやいんんとは



明治二年壬午王政御維新改國

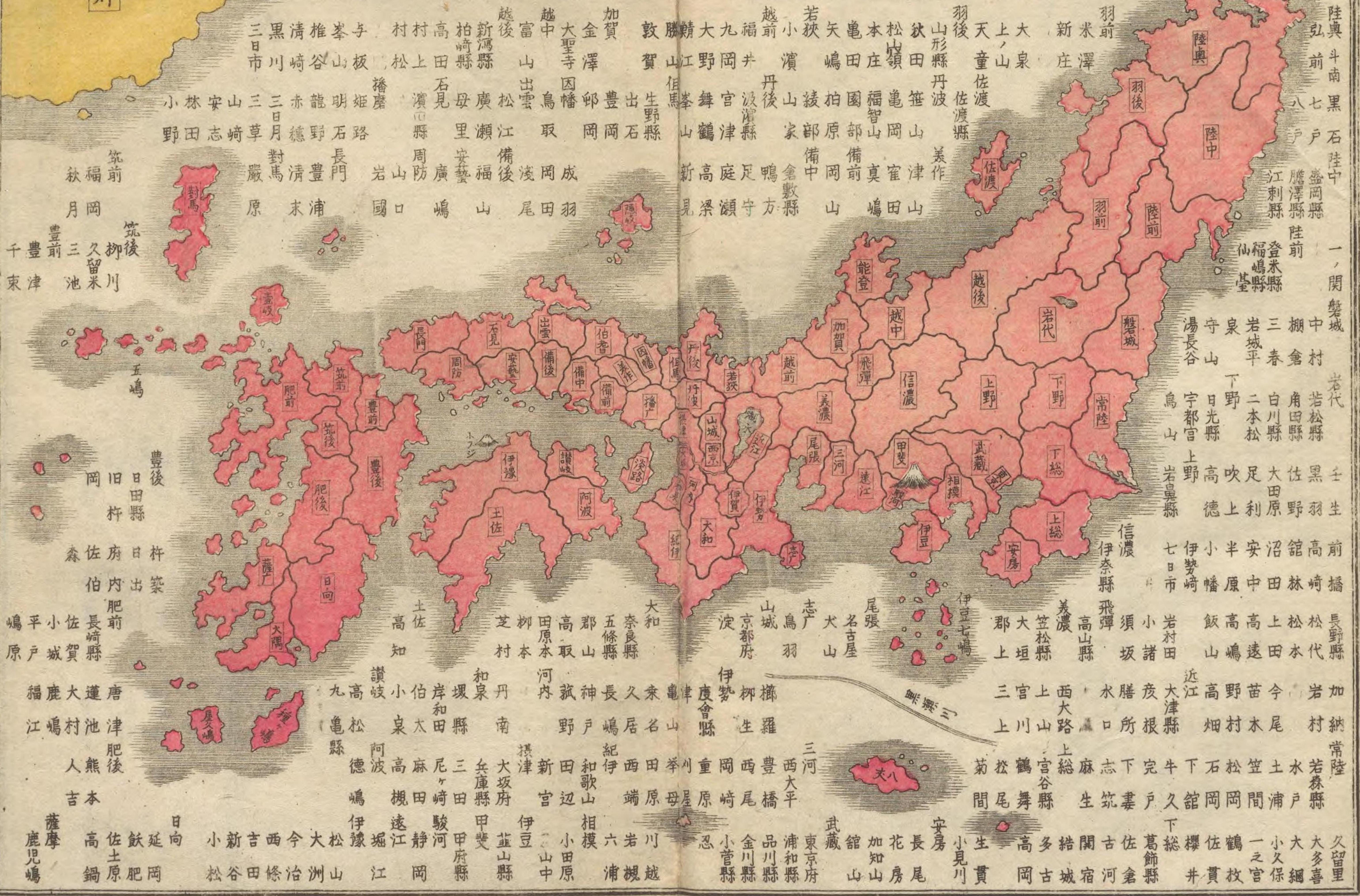
今上皇帝

陸奥 弘 羽前 新米 大 上 天 後 山 形 秋 山 松 本 龜 矢 若 小 越 前 福 九 大 精 勝 敦 加 賀 金 大 越 中 富 越 後 新 河 柏 高

明 治 二 年 皇 帝 王 政 御 維 新 改 國 圖

今上皇帝

朝鮮



於東京 皇國銅鑄開基第二世玄二堂松田綠山鑄之



明治御維新鎮臺分營管記

東京鎮臺 常備步兵十大隊

直管 武藏 上野 下野 常陸 下総 上総 安房 相模

第一分營新潟 常備步兵一大隊

管 越後 羽前 越中

第二分營上田 常備步兵一小隊

管 信濃

第三分營名古屋 常備步兵一大隊

管 尾張 伊勢 伊賀 志摩 遠江 三河 美濃 飛騨

大阪鎮臺 常備步兵五大隊

直管 山城 大和 河内 和泉 紀伊 丹波 播磨 攝津

第一分營小濱 常備步兵一大隊

管 若狹 近江 越前 加賀 能登 石川 丹後 但馬

第二分營高松 常備步兵一大隊

管 讃岐 阿波 土佐 伊豫 淡路

鎮西鎮臺小倉 常備步兵二大隊

直管 豊前 豊後 筑前 筑後 肥前 肥後 壹岐 對馬

第一分營廣島 常備步兵一大隊

管 安藝 備前 備後 出雲 石見 隱岐 周防

第二分營鹿兒島 常備步兵四小隊

管 薩摩 日向 大隅

東北鎮臺石巻 常備步兵一大隊

直管 磐城 岩代 陸前 陸中

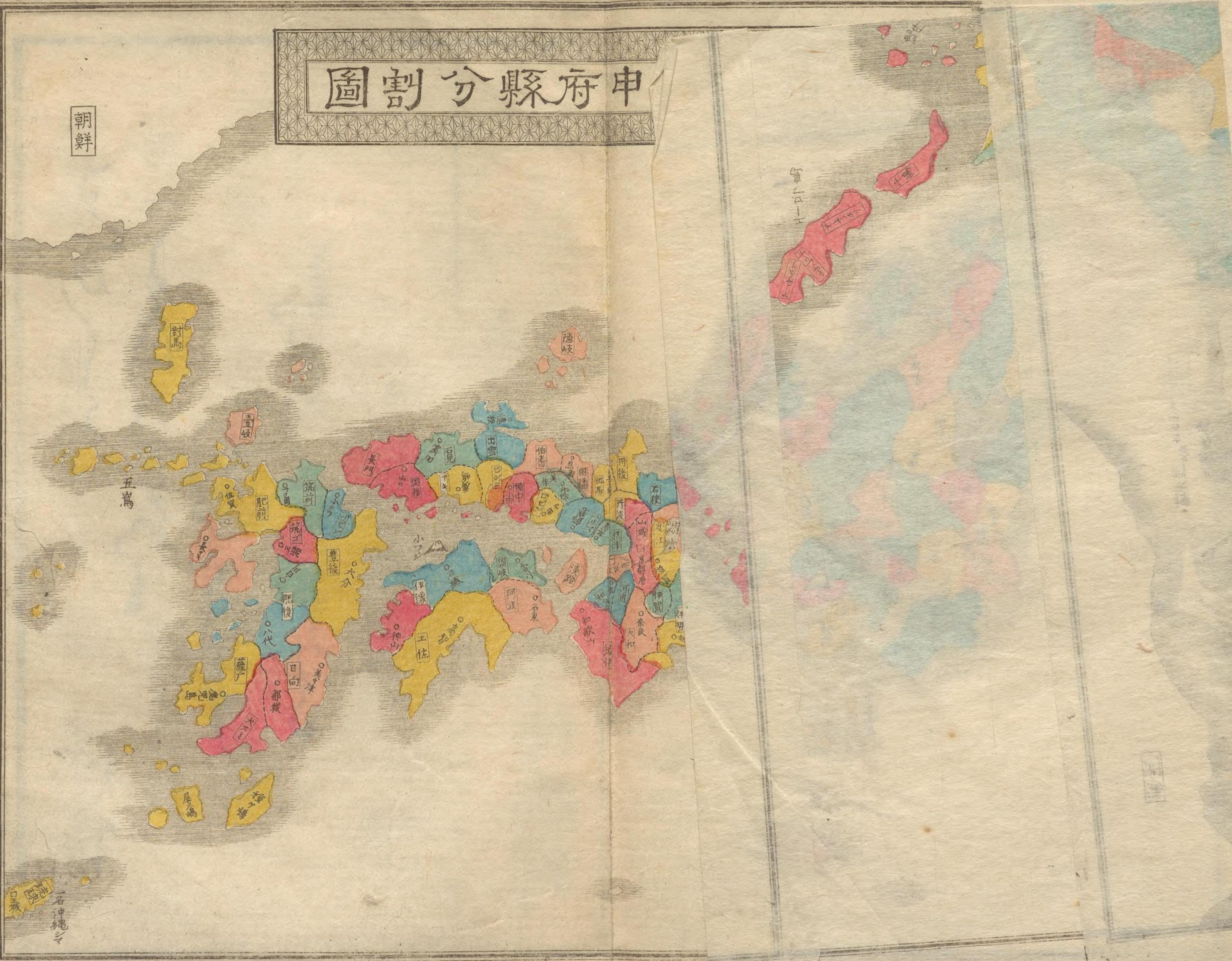
第一分營青森 常備步兵四小隊

管 陸奥 羽後

岩陸中六郡 手二十四万石余 置羽前一郡 賜二十八万石余	閉伊和賀禪貫 紫波岩手九戸 置賜之内 龜田茂部上磯福島 津輕檜山爾志 久遠真尾大樽瀬棚 嶋牧青部歌兼磯屋 岩内古字積丹美國古平 餘市忍路高嶋小樽 宗谷利尻禮文 枝幸紋別常呂 網走斜里 廣尾當線上川 中川河東河西 十勝	千嶋 國後擇捉振別 斜里藥取	石加賀一圓 江沼能美石川 河北	新越後二郡 蒲原岩船	丹後一圓 加佐與謝丹波竹野熊野 朝來丹波 丹波三郡 城崎養舍二万七美 四十六万石余 多紀冰上天田	濱石見一圓 安濃通廣那賀 邑知鹿足美濃	岡備前一圓 和氣磐梨邑久赤坂上道 上東御野津高兒嶋	山周防一圓 大島熊毛玖珂都濃佐波 吉敷 長門一圓 厚田厚東豐西豐東 八十九万石余 大津美禰阿武豊田	香讚岐一圓 大内寒川三木山田 香東香西那珂阿野 三野多度川田鶴足 安藝香美長岡土佐	高土佐一圓 吾川高岡幡多	知四十九万石 田河企救京都仲津 小豊前一圓 上毛下毛宇佐築城 倉三十六万石余	長肥前三郡 彼杵高来松浦内 壹岐一圓 壹岐石田	崎二十九万石余	都日向三郡 那珂郡内宮崎郡内 諸縣郡内	城大隅六郡 大 四十三万石余 始羅肝属	青陸奥一圓 森外三松前 三十八万石余	山羽前一郡 形四十五万石余 石侍	胆振 山越蛇田有珠 室蘭幌別白老 勇拂千歳 白糖足奇劍路 阿寒細尾川上 厚岸	敦越前一郡 若狭一圓 賀二十三万石余	七能登一圓 越中一郡 尾四十六万石余	柏越後五郡 嶺城古志魚沼 前羽三島	鳥因幡一圓 高草氣多八東岩井 河村久米八橋 會見日野	取四十五万石余	飾播磨一圓 明石賀古三木赤穂 依用多可揖西揖東 饒西饒東神西神東 賀西賀東印南穴粟	曆六十五万石 中都宇窪屋如夜下道浅口 小田後月替多阿賀上房 沼隈深津安那品治 芦田神石	小備中一圓 伊都那賀名草海部 有田日高牟婁郡之内	和紀伊七郡 宇野野間新居周布 柔村越智風早和氣 温泉伊豫	石伊豫十郡 怡土志厂早良那珂席田 糟屋宗像鞍手喜麻穂波 上座下座御笠遠賀夜須	鐵二十四万石 日高球珠直入大野 海部大分速見國崎	福筑前一圓 玉山山鹿菊地山本阿蘇 託广飽田合志上益城	大豊後一圓 那珂郡内宮崎郡内 諸縣郡内免湯白杵	分四十三万石余	白肥後九郡	川日向五郡	美日向五郡	津十四万石余	陸中一郡 羽後七郡 中鹿角 平鹿雄勝仙北 由利川辺秋田山本 田羽前一郡 羽後一郡 田川 鮑海 天塩 增毛留萌苦前 天塩上川中川 流沙新冠静内 三石浦河樣似 幌泉 花咲根室野付 標洋茅梨 豆羽吉田丹生 坂井大野 砺波新川婦負 羽茂雜太加茂 意宇能義嶋根秋鹿楯縫 出雲神門飯石仁多大原 知夫海部周吉隱地 蓄西久米北久米南 大庭真嶋吉野 阿波美馬三好麻殖 名東名西勝浦那賀 板東板西海部 津名三原 宇和喜多浮元久米 御原生葉竹野山本御井 三渚上妻下妻山門三毛 肥松浦郡内藤津杵島小城 佐賀神崎三根養父基肆 對上縣下縣 下益城宇土球摩 芦北八代天草 大熊毛取謨 高城薩产觀島日置伊作 河多河辺類姓楯宿給黎 給山出水鹿兒島 沖繩計羅产無久米伊豆那 栗島伊惠惠平屋鬼界 八重山大嶋德島永良平 共論宮古
--------------------------------------	--	----------------------	-----------------------	---------------	--	---------------------------	---------------------------------	---	---	-----------------	--	----------------------------------	---------	---------------------------	------------------------------	--------------------------	------------------------	--	--------------------------	--------------------------	-------------------------	-------------------------------------	---------	---	---	--------------------------------	---------------------------------------	---	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------	-------	-------	-------	--------	---

申府縣分割圖

朝鮮



五島

水口清風

石浦總之

島

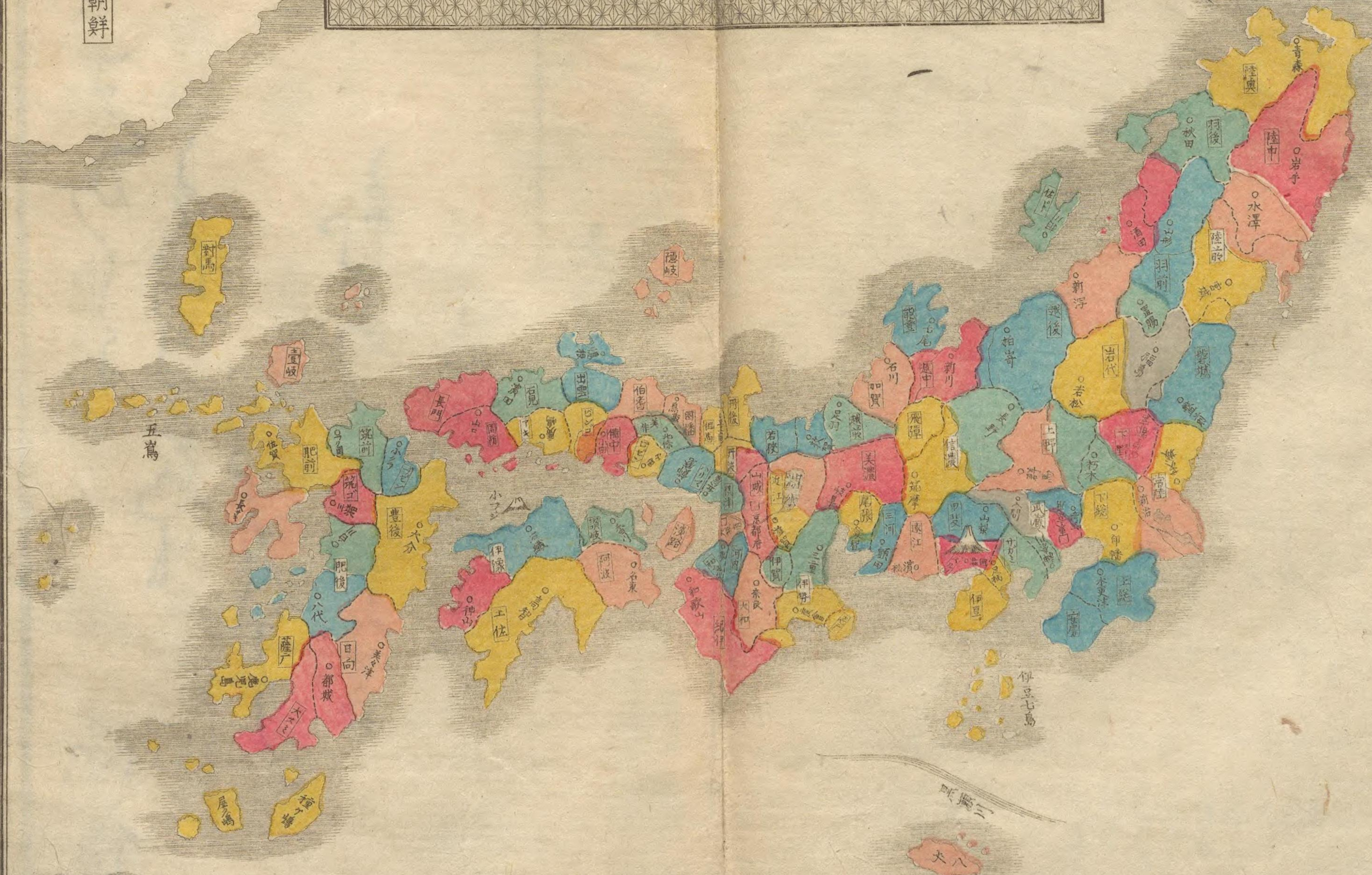


明治五年壬申府縣分



明治五壬申府縣分割圖

朝鮮



五島

伊豆七島

三島

大八

水口清風

石川繩子



まろくま

まろくま

まろくま

源隆

まろくま

法代のまろくま

大原家

大槻東陽編輯

明治庚午初冬

官許

大原家藏版

三府

京都寺町本能寺前

錢

屋惣四郎

發行

大塚心齋橋通寺町

敦賀屋喜

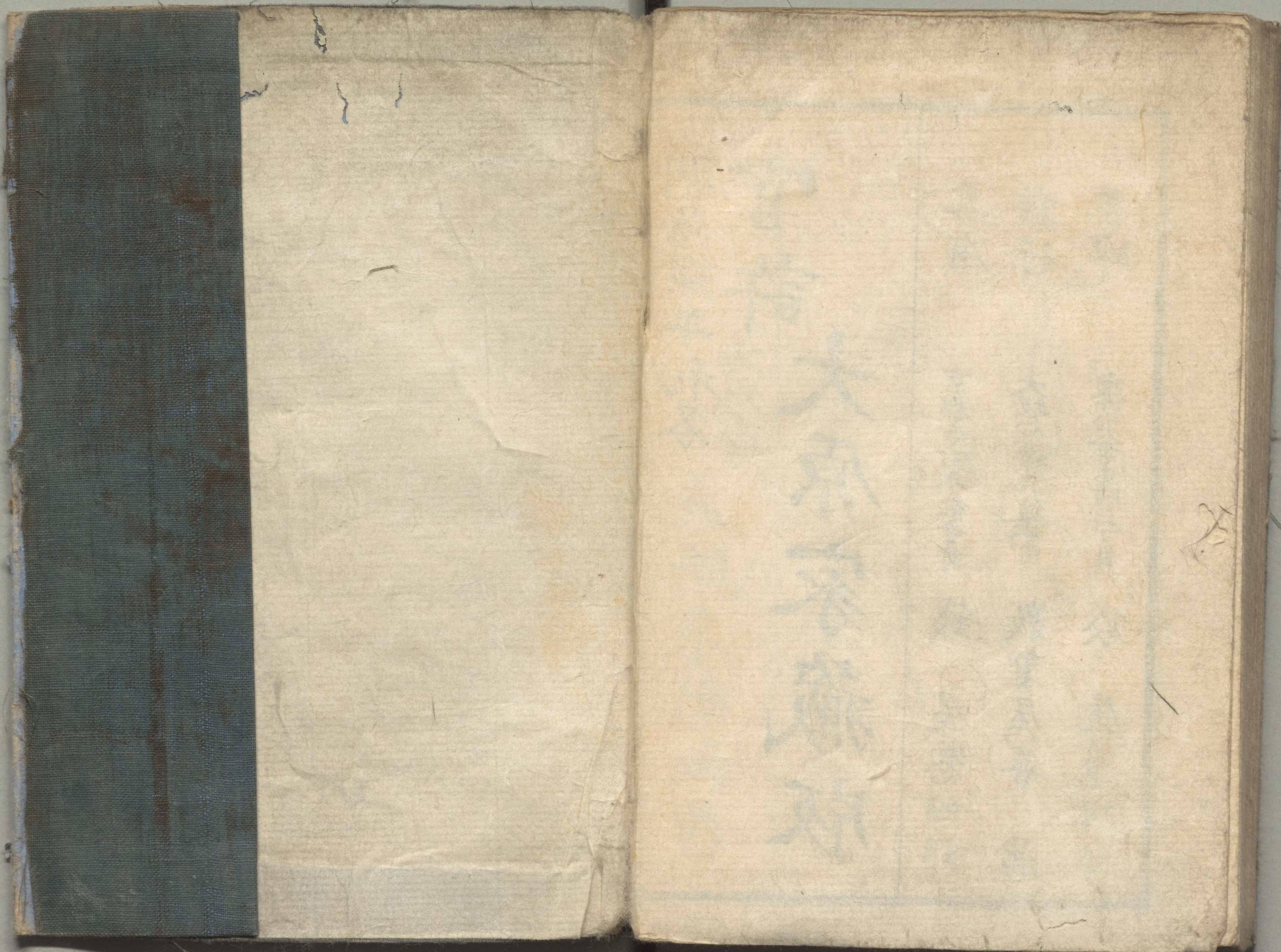
藏

書肆

東京大傳馬町三丁目

袋

屋龜次郎



28

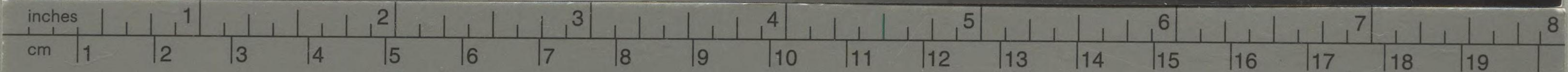


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



KODAK Color Control Patches

© 2021 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. KP127082B

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

